

議 事 日 程 （第 2 号）

令和 7 年 1 月 8 日（水）午前10時開議

日程第 1

一般質問

質問順序	1. 4 番	山口裕教
	2. 6 番	加藤治司
	3. 14番	竹内祐子
	4. 5 番	柴田一雄
	5. 13番	佐原佳美
	6. 1 番	相曽桃子
	7. 12番	楠 浩幸
	8. 17番	神谷里枝
	9. 15番	荻野利明
	10. 2 番	山本晃子
	11. 3 番	寺田 悟
	12. 9 番	福永桂子
	13. 18番	二橋益良

- 本日の会議に付した事件……………議事日程に掲げた事件に同じ
- 出席及び欠席議員……………出席表のとおり
- 説明のため出席した者……………出席表のとおり
- 職務のため議場に出席した事務局職員……………出席表のとおり

午前10時00分 開議

○議長（馬場 衛） ただいまの出席議員は17名で
ございます。定足数に達しておりますので、本日の
会議を開きます。

本日は傍聴席へ報道機関が入っております。撮影
を許可した者には許可証を交付しておりますので、
御報告いたします。

本日の議事日程はお手元に配付のとおりでござい
ます。

今回、13名の議員の一般質問が通告されていま
す。一般質問の日程は、本日13名を予定していま
すので、9日は予備日といたします。

今回は、市長の所信表明に対する一般質問となり
ます。議員の皆様には、この旨よく御理解の上、特
に施政方針に係る質問は控えていただき、発言が長
時間とならないように簡潔明瞭をお願いいたします。
また、重複した質問内容がございます。一般質問は
通告の届出順となりますので、後に発言される議員
におかれましては、必要に応じて取下げをするなど
御対応をお願いいたします。予定された日程で全て
の一般質問が終わられるよう、皆様の御協力を強く
お願いいたします。

○議長（馬場 衛） 日程第1 一般質問を行いま
す。

本日の質問順序は、受付順により1番 山口裕教
議員、2番 加藤治司議員、3番 竹内祐子議員、
4番 柴田一雄議員、5番 佐原佳美議員、6番
相曽桃子議員、7番 楠 浩幸議員、8番 神谷里
枝議員、9番 荻野利明議員、10番 山本晃子議員、
11番 寺田 悟議員、12番 福永桂子議員、13番
二橋益良議員と決定いたします。

初めに、4番 山口裕教議員の発言を許します。

〔4番 山口裕教登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは4番 山口裕教議員、
どうぞ。

○4番（山口裕教） 4番 山口裕教。ただいまよ
り一般質問を行わせていただきます。

まず主題、市長の所信表明について。

質問しようとする背景や経緯、市長所信表明にあ

る人口減少やデジタル化の急速な進展、自然災害の
激甚化など、社会が大きく変化する中で、魅力的な
湖西市を子供たちに引き継ぐための4つの柱につい
て質問いたします。

質問の目的は、魅力的な湖西市を子供たちへを理
念に、子供たちが住み続けたいと思えるまちづくり
の実施事項に対する具体的な考えを確認したいため
です。

では、1つ目の質問。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○4番（山口裕教） まず1つ目の「命を守る」に
ついて。

大規模災害時の緊急輸送路の確保や河川工事、土
砂災害危険箇所の対策などに取り組むとありますが、
市長の考えをお伺いいたします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたし
ます。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 山口議員にお答えをいたしま
す。

私は、災害対策におきましては、国、県、近隣自
治体等との連携が必要不可欠だと考えており、これ
まで県議会議員として培ってきた経験や人脈を最大
限に生かし、市民の命を守るべく尽力してまいる所
存です。

まず、緊急輸送路の確保です。

市指定の緊急輸送路につきましては、市道向島弁
天線において課題があるようです。現在、南進2車
線、東側でございますが県管理、北進2車線、西側
でございますが、こちらは市が維持管理を行ってい
ますが、これに架かる東門橋は下部構造において耐
震性能が確保されていないと報告を受けました。今
後、県と調整の上、橋梁の補修・耐震設計を実施し、
早期事業化を図りたいと考えています。

なお、被災直後に早急な道路啓開を行うためには、
地元建設業者の協力が必須となりますので、日頃か
らの訓練や啓開に関する勉強会などを行うことによ
り、被災時にスムーズな連携ができる体制を構築す
ることが大切であると考えております。

次に、河川工事と土砂災害危険箇所対策等につい

てです。

まず、治水対策においては国、県、周辺自治体との連携を図り、早急な治水対策を検討する「遠州流域治水協議会」に参画していますが、これにより県管理の二級河川入出太田川の河道掘削と連携し、その上流に当たる準用河川境田川の改修に向けた予備設計業務を進め、早期事業化を図りたいと考えています。

加えて、今回の補正予算にも治水対策として2河川分の工事請負費を計上させていただいておりますが、市内各所で度々繰り返される内水氾濫や水の災害に対しましても、各現場の状況に応じた対策を進めてまいります。

次に、土砂災害危険箇所の対策です。

県は、令和6年3月に県内で9,047か所、湖西市内では149か所の新たな土砂災害警戒区域候補地を公表しています。今後、県と連携を進めながら速やかな基礎調査の実施、新規箇所の指定を進めていきます。

さらに、擁壁やのり面对策などの急傾斜地崩壊対策事業におきましても、関係住民の御理解が得られるようであれば、県と連携し指定に向けての調整を行います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 山口裕教君。

○4番（山口裕教） ありがとうございます。湖西市においても、過去に地震や台風などによる浸水や土砂災害が発生しているとともに、レベル2、最大の津波が発生した場合は、遠州灘海岸一帯や浜名湖の一部と新居町市街地の多くのエリアで浸水が予想されるとともに、土砂災害特別警戒区域や土砂災害区域が一部の市街化区域に指定されています。河川氾濫危険箇所などにおいては、早め早めの改修工事を実施するとともに、ふだんは水量の少ない準用河川におきましても、2023年のような線状降水帯による集中豪雨が発生すると、予想もつかないような事態になる可能性もあります。安全・安心で誰もが住みたい湖西市になるよう、よろしく願いいたします。

では、次の質問よろしいですか。

○議長（馬場 衛） どうぞ。2番目に行ってください。

○4番（山口裕教） 2つ目の「湖西市をより暮らしやすく」について。

人口減少が顕著となっている北部や南部地区の活力維持にも注力し、既存集落における空き家対策や従来からの宅地の利活用を促すとありますが、空き家対策の方向性について市長の考えをお伺いいたします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） それでは、山口議員にお答えをいたします。

私としては、空き家の存在は防犯・防災や生活環境に多くの問題を生じさせる等、地域コミュニティの活力を低下させる要因と認識しています。

本市の空き家対策については、昨年7月に活用の拡大、管理の確保、特定空家の除去等の3つを柱として、湖西市空家等対策計画の改定が行われたと承知しております。

湖西市空家等対策計画では、市内全域を対象区域としており、今後の空き家対策について市街地だけでなく既存集落や従来からの宅地においても3つの柱に基づき、施策を展開するものと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 山口議員。

○4番（山口裕教） ありがとうございます。空き家などは個人の財産であることから、本来は所有者が管理する義務がありますが、経済的な理由から管理を行うことができない場合も多々あります。地域の実情に応じて有効活用を図ることや良好なコミュニティを形成し、移住定住を促進するなどの有効活用を図ることが大切で、利活用が可能な空き家などについては活用策や流通促進の支援を行うための情報を民間事業者や所有者だけでなく、買手や借手となり得る市民や市外の人たちにも広く周知し、利活用を促進するための支援をお願いいたします。

では、次の質問よろしいですか。

○議長（馬場 衛） 3番目ですね、どうぞ。

○4番（山口裕教） では、次の3つ目の「湖西市を元気にする」について。

人口減少を食い止め、若い世代に住んでもらうためにも産業の振興は重要で、県議時代からも力を入れてきたとあります。産業の振興を人口減少とどのように絡めながら進められるのかをお伺いいたします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） それでは、山口議員にお答えをいたします。

私は、若い世代が湖西市で生活基盤を築けるように、安定した雇用の創出につながる事業者支援に取り組んでまいります。

具体的には、製造業の強化に加え、観光産業や農業、水産業の振興にも注力し、地域全体にわたる産業構造の多様性を確保することで地域の魅力を高め、住み続けたいなるまちづくりを推進していきます。

また、製造業の関連企業の誘致を進めることで雇用を生み出すとともに、例えば観光産業やファッション、デザインなど女性や若年層が興味を持ちやすい分野の企業誘致にも取り組んでいきたいと考えています。

さらに、スモールビジネスの創業支援やスタートアップ支援に取り組むことで、市内で新たな事業を生み出し、若い世代が挑戦しやすい環境を整えてまいります。

私が考えるスモールビジネスとは、小規模で地域に密着したビジネスで、主に飲食店やサービス業などをイメージしています。これらのビジネスは地域のニーズに応じ、長期的な視点で安定した経営を目指して運営されるものと考えています。この創業支援については、商工会などと連携して取り組んでまいります。

一方、大きな市場やグローバル展開を視野に入れ、新しいアイデアや革新的な技術を基盤として急成長を目指すビジネスモデルであるスタートアップへの支援については、県と連携して取り組んでまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 山口議員。

○４番（山口裕教） ありがとうございます。製造業の誘致や関連企業の誘致、スモールビジネスの創

業支援、農業、水産業の復興など、産業構造の多様性の確保などは非常に重要なことだと思います。

一方、現状の湖西市におきましてはモノづくりのまちとも言われ、湖西市で働く人は現在も多くいますが、浜松市をはじめ近隣市からの通勤者が多く、朝夕の道路渋滞の原因ともなっています。多くの自然や風光明媚に恵まれた湖西市をアピールするなど、移住定住促進策を講じ、市外からの転入を促進することもお願いいたします。

では、次の質問よろしいですか。

○議長（馬場 衛） ４番目ですね、どうぞ。

○４番（山口裕教） ４つ目の「学びと子育ての関係を整える」について。

遊びの充実の新設や既存施設の定員拡充を進める計画を子ども・子育て会議で承認をいただき、民間保育施設は来年度に公募する方針を予定どおり進めていくのか、また別の方法を模索するのか、市長の考えをお伺いいたします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 山口議員にお答えをいたします。

私としては、令和７年４月の入所待ち児童の状況や直近の出生児数などの分析は必要と考えております。ただ、こちらに関しましては市の担当職員はとても優秀でありまして、私が思っていた以上にしっかりと人口動態シミュレーション等々を踏まえて、分析をいただいていると思っております。その上で、民間保育施設の新設や既存保育施設の定員拡充を進め、入所枠を確保してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 山口議員。

○４番（山口裕教） ありがとうございます。昨年実施した湖西市全域の就学前児童の保護者に実施した行政に望む子育て支援アンケートの結果として、保育園、こども園などの保育施設の入園拡大が40.7%と最も多く、次いで保育園、こども園の一時預かり事業の拡大が31.8%となっていました。民間保育施設の新設や既存施設の定員拡充など、子ども・子育て会議で承認をいただき、来年度における民間保育施設の公募など、予定どおり推進していた

できますようお願いいたします。

以上で、私の一般質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（馬場 衛） 以上で、4番 山口裕教議員の一般質問を終わります。

次に、6番 加藤治司議員の発言を許します。

〔6番 加藤治司登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは6番 加藤治司議員、どうぞ。

○6番（加藤治司） 6番 加藤治司です。よろしくお願いします。

主題は、所信表明にあります地震・津波対策についてです。

背景や経緯ですが、市長は所信表明の中で政治は命を守ることであり、まず取り組むべきことは地震・津波対策とありますが、私も最優先事項だと思います。

平成23年3月に発生した東日本大震災の甚大な津波被害を受け、静岡県では津波防災地域づくりに関する法律に基づき、津波防災地域づくりを各市町と連携して進め、湖西市でも最大クラスの津波から何としても人命を守るという考えの下、平成26年度に完成した新居弁天わんぱくランド津波避難タワーを皮切りに、令和3年度に高師山地区津波避難タワー及び上田町地区命山が完成したことで、全ての津波避難施設空白域が解消されました。その後、令和4年度から5年度にかけて、湖西市津波防災地域づくり推進計画が作成されました。

質問の目的ですが、湖西市津波防災地域づくり推進計画のさらなる推進のため、推進計画、減災計画実現に向けた今後の進め方について、新市長の考え方を伺いたいと思います。

質問1つ目いいですか。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○6番（加藤治司） 1つ目の質問ですが、湖西市津波防災地域づくり推進計画で、今後さらなる検討が必要な事項として、自助・共助のさらなる推進、避難施設の整備、要配慮者の避難態勢強化等がありますが、これはまさに所信表明の中で取り上げ

ている実態に即した避難訓練の実施、福祉避難所の設置運営など同一の内容であります。県議員14年で見聞きした他市町の模範事例を取り入れるなど、具体的な方策ビジョンがあれば伺いたいと思います。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 加藤議員にお答えをさせていただきます。

先ほど加藤議員からお話がありましてとおり、私は14年間、県議員をさせていただきました。この地震・津波対策を考える上での原点は、私が当選をさせていただいたのが2011年東日本大震災の直後でございます。そのときに、数か月後に岩手県の山田町に視察に行かせていただきました。発災から数か月後だったので、この時点で伺ってもいいものなのだろうかということで仲間の議員ともいろいろ検討したんですけども、山田町さんのほうからぜひ来てくださいというお声をかけていただいたので伺いました。そのときに、今でも脳裏に焼きついていまして、山田町の職員さんが涙を流しながら、ここで見聞きしたことをぜひあなたの地元へ持ち帰ってくださいと、同じようなことがないようにしてくださいと言っていたのが私の地震・津波対策の原点です。ですので、本当に思い出しながら県議員のときも活動をしてまいりましたし、今市長に当選をさせていただきましたが、これからもそれをしていきたいと思いますと思っているところでございます。

改めてでございますけども、東日本大震災や能登半島地震における教訓として、避難の際の逃げ遅れや避難所の環境改善などの課題を市の状況に照らし合わせて、取り入れていきたいと考えております。

具体的には、逃げ遅れを防ぐための対策として沿岸地域の住民を対象とした、スマートフォンを活用した避難訓練を実施し、避難に関する課題を洗い出すことで逃げ遅れの少ない体制を構築してまいります。

さらに、避難所の環境改善において、避難所へのエアコン設置を検討してまいります。また、福祉避難所については、利用可能な施設の確保、物資、器

材の備蓄、専門人材の確保、運営体制の整備が課題であります。今後、実際に福祉避難所となる事業所の御意見を聞きながら、公的機関、社会福祉施設、医療機関、民間企業など多くの方のお力をお借りしてこうした課題の解消に取り組むとともに、一般避難所における要配慮者の心身の健康の確保についても環境整備を進めてまいります。

以上でございます。

○議長（馬場 衛） 加藤議員。

○6番（加藤治司） まだ市長になられて日が浅いもんですから、これからいろいろ施策を実行していかれると思いますけども、今までの議会でも度々いろんな話がありました中で、自治会とか自主防災会、こういうものが人の減少とか高齢化で大分弱体化してるという話があります。そういういろんな対策を打つにも、日頃、地元にいる高齢者とかそういう方の力というのが非常に大切だと思いますので、お願い事ですけども、そういう元気な高齢者の協力を得られるような施策を打っていただきたいなと思います。また、すぐにはなくてもいいんですけども、そういう他市町のユニークな取組事例など、今後の実行段階でできるものから順次取り入れていただきたいと思いますので、これはお願い事でございます。

次、2番へ行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○6番（加藤治司） 減災計画の継続検討というのが津波・防災地域づくり推進計画でありますけども、防潮堤整備を引き続き検討を行うとしていますが、防潮堤整備についての市長の考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 加藤議員にお答えをいたします。

防潮堤整備については、整備に係る課題も多く難しい判断になると感じております。

整備の方向性につきましては、令和7年度中に結論を出すことを目指して、学識者、国、県、行政関係機関、市民代表、庁内関係部署等の委員で構成される湖西市津波防災地域づくり推進協議会で、現在、検討を重ねているところであります。その審議結果等も踏まえて、最終的な結論を出していきたいと考

えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 加藤議員。

○6番（加藤治司） 静岡県の河川砂防局のホームページを見ますと、県と湖西市の調整状況は令和4年度からの津波防災地域づくり法に基づく推進計画の策定作業と並行して、静岡モデル防潮堤整備について検討が行われており、令和7年度をめどに方向性が示される予定となっています。令和7年度というのは次年度のことで、すぐ目の前で提示されると思いますけども、その中でも静岡モデル推進検討会の中でいろいろ各部の部長さんとか幹部の方々が検討会に参加されて議論されてると思いますけども、その中でこれもお願いですけども、湖西市民、特に被害を受けるような場所の方々が、納得できるような結論に導いていただきますようお願いいたします。財政上とかいろんな厳しい問題がたくさんあると思うんですけども、法律に基づいて県の主導でやめることですから、そこら辺を踏まえてよろしく願いたいと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 以上で、6番 加藤治司議員の一般質問を終わります。

次に、14番 竹内祐子議員の発言を許します。

〔14番 竹内祐子登壇〕

○議長（馬場 衛） 14番 竹内祐子議員、どうぞ。

○14番（竹内祐子） 14番 竹内祐子です。所信表明について一般質問をさせていただきます。

質問しようとする背景や経緯ですが、所信表明で市長の選挙公約の4つの柱について伺いました。

質問の目的は、この公約の確認をするために行います。

それでは、質問事項1に入ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○14番（竹内祐子） 公約1の「命を守る」でまず取り組むべきは地震・津波対策とありますが、防災訓練の拡充については述べられていました。津波対策についてのお考えをお伺いいたします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたし

ます。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

津波対策としては様々な対策が考えられますが、昨年度策定した津波防災地域づくり推進計画において、地域住民の意見を取り入れた具体的な施策を定めております。私は、これらの事業を着実に推進することで、市民の生命、財産を守る取組を進めていきたいと考えております。

その取組の一つとして、防災訓練の拡充については、沿岸地域の住民を対象にスマートフォンを活用した、自宅から最寄りの避難施設までの避難訓練を行い、避難時間や避難速度などのデータを収集・分析し、避難に関する課題を洗い出すことで逃げ遅れない体制の構築を検討してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます。今まで担当のところでもしっかりと計画を策定されて、地域住民との意見交換をして、湖西市なりの津波対策に配慮してきたと私も考えています。

先ほど市長のほうでも3.11のときの現場を見てきてっていう感想がありました。今回、私も11月に輪島市と珠洲市にも行ってまいりました。そこの珠洲市の市長さんからもいろいろお話を伺ってきたんですけども、珠洲市も元旦に起きる前にも頻繁に地震が起きていたので、避難訓練はしょっちゅうやっていたと。そして消防団の方たちは、高齢者のお宅にその高齢者がどこに寝ているかっていうぐらいに間取りの把握もされていて、本当に地域で命を守ろうという取組はされていたそうです。でも、津波が30分後に来てしまっって、やはり古いお宅はもちろん潰れてしまったのでなかなか大変でしたけれども、でも消防団の方たちは少しでも人を助けるために救い出した方たちもいたそうです。でも30分で来てしまったので、やっぱり35人の命を救うことができなかった、倒壊した建物で亡くなった方もいらっしゃると思いますけど、そういうふうに言われていて、とてもその津波の来るのが早いことを残念がってる

っていう言い方はおかしいんですけど言っていました。ですので、私もレベル1のものについては湖西市もいいですよみたいになってますけど、遠州灘沿岸においても、湖西市だけが防潮堤の整備をしてない状況なんですけれども、やはりいろんなところでそれなりに松林っていうかそういうかさ上げ、静岡モデル的なものを取り入れながらやっているところもありますので、やはり地域住民の声を聞いて避難訓練の徹底をすると言いますが、やはりハード面の整備のことも考えていく。この間も、森林環境譲与税の使い方みたいな件で勉強もしてきましたので、やはりどうやったら少しでも津波が到達する時間を遅らせることができるかを、また検討材料に入れていただきたいなと思います。

そんなことですので、市長さん、県会議員時代から一生懸命この地震についてのお勉強はされてきていると思いますので、本当に市長になられてこれから湖西市について、沿岸部についてどんな考えがあるか、率直な御意見を伺わせていただきたいと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

県議時代の仕事としては、今切から約1キロ弱のところに関しましては、県の港湾の区域になりますので県でやることはないかということで、その当時の川勝平太静岡県知事に見てきていただいて、数メートルのかさ上げ工事と、あと今ちょっと違った切り口で話題になってる命山の整備にこぎ着けることができました。ただ、残りの新居海岸、白須賀海岸に関しましては、国や県との協議ですとかやはりコストの問題ですね、そこに大きな課題があると思っておりますので、先ほども各課と議員の答弁にも申し上げましたとおり、あと1年ぐらいで答えを出していきたいなと考えているところでございます。

決してハードが全く必要ないというふうには考えておりませんが、ただ私も14年間いろいろと各地域、拝見をさせていただいたんですけども、やはり命が助かっている地域というのは、やっぱりソフト対策を徹底的にやったところが命が助かっていて、逆にハード整備が相当行われていても、こんだけ大きな

堤防ができてから大丈夫だろうって思われた地域でたくさん人が亡くなっているという状況でございますので、そのソフト対策の重要性というのは私はとても重要だと認識しておりますので、そこをやはり主にこれからはやっていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員、どうぞ。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます、よく分かりました。

では、次へ行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○14番（竹内祐子） 避難所へのエアコンの設置については、具体的にどのように考えているか伺いたします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

避難所へのエアコン設置については、災害時における避難所の環境改善やふだんの児童生徒の学校生活における熱中症対策としても重要であることから、積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

一方で、整備には多額の費用が必要であることから、より効率的に設置できるよう、財源の確保や施工方法等、効果的な手法についての調査と研究に努めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 昨年の秋後半からかな、各新聞紙面においてもやはり小中学校の教育施設に対してのエアコン設置を、予算組みをしていきますよという記事をよく見かけました。私も湖西市もどうかになって心配しながらいるんですけども、確かに多額の費用がかかってしまいますけれども、子供にとっては体育館は本当に一つの学びの場であって、地域住民にとっては避難の場所でもありますね。ですから、やはりここは優先順位を上げて取り組むべきことだと思うんです。多分、今年も猛暑だと思います。あの暑さでは体育の授業も水泳すらできなかったそうです。ですので、やはりこのところは少しでも

早く財源確保に努めていただいて、準備をしていたきたいと思います。子供さんたちに湖西市の魅力を伝えていきたいというお考えの市長さんですので、このことについては令和7年度中にはできるかどうか、どうでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員、再質問ありがとうございます。私もそれこそさっきの山田町の視察に行ったときに、やはりエアコンがついていない避難所の現場というものを拝見いたしました。言葉には表せないような状況でございました。ですので、先ほども答弁にもありましたとおり、国の財源を見ながら積極的に取り組んでまいりたいと思いますので、ぜひ動向を見守っていただければありがたいなと思います。よろしくお願いいたします。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 命に関わることでありますので、本当に湖西市議会としてもそのような要望をしていきたいなと思います。分かりました、ありがとうございます。

それでは3番目に行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○14番（竹内祐子） 医師や看護師の確保についてどのようなプランを考え、いつまでに確保目標数をお考えなのか伺いたします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

私としては、市立湖西病院経営強化プランの目標値であります常勤医師18人、常勤看護師72人を目指していきたいと考えております。

まず、医師につきましては目指している総合診療医の専門研修連携施設の認定に向け、本年度、準備を進めているところと聞いております。その結果、湖西病院が研修基幹施設となり、研修医の受入れ強化を図り、常勤医を確保していきたいと考えております。

看護師につきましては、近年の医療の高度化による看護の複雑化などの理由により、全国的にどの医療機関においても人手不足が課題であると認識し

ております。その上で、令和6年度から設定された浜松市立看護専門学校の湖西市入学枠の広報を強化し、4年制大学を含む看護学校等へのリクルート活動や修学資金貸与制度の周知や離職者対策により、看護師の確保に努めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） やはり湖西病院の経営状況をよくしていくためには、お医者さんと看護師さんが必要ですし、なぜ必要かっていうとやはり入院患者を増やしていかないと収益も上がってきませんよね。そんなことで、やはり私としては常に一応いつもこの医師や看護師の人数目標を提議されているんですけども、なかなかその数字に達成することができず、途中で異動されたりとか辞められたりとか、湖西病院がいつらいのか何なのかよく分かりませんけど、意外と病院職員の異動が多いんですね。

今回もちょっとどうなのかなっていうことで伺てみたら、令和6年度の本来だったらお医者さんが16人いなければいけないのが今15人だよという、途中で異動になったのか辞めたのか知りませんが減りましたというお話でした。そういうふうに医師をなかなか確保できない状況で、新市長としてはじゃあどういうふうにして医師を招聘していくのか、特別な考えがあったら教えていただきたいんですけれどもありますか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員、再質問ありがとうございます。

医師の確保につきましては、まず県の医師の少数スポットに湖西市は認定をさせていただきましたので、その効果というのはまず医師派遣において顕著に出てくると思います。静岡県は医師の卵の方々に対して奨学金の制度を設けております。ですので、奨学金をもらった期間、例えば6年としたらその1.5倍の9年間はしっかりと県が指定をした病院に勤めてくださいよというそういう制度があるんです。その医師の少数スポットに認定をされたということは、その奨学金を受けたお医者様が優先的に派遣をされてくるということですので、ここは顕著に効果

が出てくると思います。

あとは、やはり医師の派遣におきましては浜松医科大学との連携というものはとても大事ななと思っております。そこにおきましては、浜松医大、現在は今野学長でございますけども、私も県議時代には今野先生にいろいろ御教示をいただいて、定期的に今野先生のところにお邪魔して、逆に浜松医大から提案されたような内容を私が県議会の本会議で提案するようなこともございました。関係としては大変深いという認識をしておりますので、やはりその人脈を使って丁寧に丁寧にやっていきたいなと思っております。ただ、やはりお医者様の世界というのは、結構分野分野で独自の世界を保っていらっしゃると思いますので、内科、外科独自でピラミッドが形成されているようなところなので、そこら辺もやはり丁寧に認識をしながら、これからお医者様の派遣に関しても私のほうで、トップ自ら動いて派遣をお願いをしていきたいなと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます。県議時代に積み上げたやはり実績を、市長になってフルに活用させていただきたいと思います。

湖西病院、本当にいろいろ考えますけれどもやはり公立病院があつてよかったっていう言葉を聞きますので、やはり湖西病院の維持のためにまた市長も汗を流していただきたいと思います。

では、次に行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○14番（竹内祐子） 公約2の「湖西市をより暮らしやすく」では、安価な運賃で必要なときに市内どこでも行けるように、デマンド交通をさらに利用しやすく拡充させることを目指すと述べられていますが、具体的にどのようにされるのか伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

私は、デマンド交通として運行しているコーちゃんタクシーについて、現在は運行していない土曜、日曜での運行や夕方18時以降への運行時間帯の拡大、

また乗降できる指定施設をよりきめ細かく設定するなど、より多くの市民の皆様にご利用していただけるよう拡充を図っていきたいと考えています。

まずは、見込まれる市民の利用ニーズを的確に把握・分析した上で、民間の運行事業者との協議・調整や地域公共交通会議での議論を踏まえて運行の拡充を進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 便利になると本当にいいと思います。

12月19日に開かれた地域公共交通会議で、コーちゃんタクシーについては10月、11月の利用が前年度比の1.5倍、それからシャトルB a a S事業のほうも1.8倍、乗合タクシーも1.5倍というふうに成果が現れてきているんですね、いろいろ乗りやすくするためにいろいろ改善をされてきていて。本当に自分たちが行きたいときに使えるようになれば、本当にこれから私たちも免許を返納していくほうに入っていくので便利になっていくと思います。

このコーちゃんタクシーのほうも、民間の方のほうがやっぱり運転手さんとかそういうのも増やして、より効率よく回してくれるようにしたっていうふうに書いてあったと思ったんですけど、さらにこれをより充実していくってなると、市のほうとしてはどんなことを協力していくようになるんでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員、再質問ありがとうございます。

まず、民間事業者に対して市が何をしていくかというこの大前提というか、その前にやらなくてはいけないことはやはりデータ収集だと思います。特に、今私が考えているのがオンデマンド交通の前にA Iという文字がついた、いわゆるA I オンデマンド交通です。やはり、ルート最適化というのは今生成A Iの飛躍的な向上により、人間の能力を上回っているのが現状です。ただ、そのプログラムを組むためには徹底的なデータ分析、例えばじゃあ今コーちゃんバス、コーちゃんタクシーを利用されている方が何時にどこから乗ってどこにどのぐらい滞在

をして、じゃあ何時におうちに帰られるとかやったら、おうちに帰れるだけではなくて本当は違うところにも行きたかったみたいな、そういったやはり含めて徹底的にデータ収集、そして情報分析、その中で理想的な交通体系というものはどういうものかと、それがコーちゃんタクシーと今のコーちゃんバスの組合せになるかもしれないですし、ひょっとしたらもうコーちゃんバスは要らないと、コーちゃんタクシーを一気に拡大するだけでいけるということが分かってくると思います。そこは、なかなか行政だけでやり切るとするのは難しいと思いますので、やはり民間との。その民間というのは、例えば遠鉄タクシーさんですとか浜松バスさんとかという交通事業者ではなくて、やはりA Iの先進的な企業と私は組む必要があるかなと考えております。それで、最適なものがどうかということで、やはり方向性を決めてそこから例えば遠鉄タクシーさんですとか浜松バスさんですとか、そのほかの交通事業者とやり取りをしていくというようなことが必要かなと考えております。例えばじゃあ1台お幾らで運転手さんとタクシーセットで私たちに提供していただけるのかとか、ちょっと生々しい議論が必要になってくると思いますが、進め方としては今そのように私も考えておりますし、これに関しましては湖西市の職員の皆さんもとても前向きに考えておりますので、今議論をしているところでございます。

ただ、あともう一つ申し上げたいのは、今まで影山市長もこの件に関しては、一生懸命取り組んでいただいておりますので、そこで取り組んでいただいたものの取組の中身といいますか、それこそデータも含めそれはとても財産になっております。それをまた分析をして、よりいいものをつくっていききたいなと思っておりますので、また市民の皆様からいろいろアドバイス、御助言いただければありがたいなと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます、分かりました。本当に行政だけではできません。本当に今、バイオマスエネルギーにしても何にしてもそう

ですけど産官学、やはりいろんなところと力を持っている、知識のあるそういうデータっていうかものが、収集できやすくするためにはやはり連携してよりよく湖西市をつくっていかないといけないと思います。

今日もラジオで聞いていたときに、やはり自動運転の車、4人乗りのところ5人乗りで結構、本当はそのまま直進しなきゃいけないのが、やっぱり前に車があったから止まって迂回していったとかっていうふうに、やはりちゃんとしっかりと分析して自動運転ができていくっていうのをちょっとラジオで聞いたときに、近いうちに本当に自動運転ってあり得るのかなっていうふうに私も感じたところです。ですので、やはりまたこのことについても湖西市が一番手でいけるように、何でも一番手でいきたいですね。ありがとうございます。

では次に行きます。

○議長（馬場 衛） 5番目ですね、どうぞ。

○14番（竹内祐子） 空き家対策について具体的な考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

私は、本市の空き家対策については、昨年4月に湖西市空家等対策計画の改定が行われたことは承知しております。今後は、この計画の考え方を踏まえまして施策が展開するものと考えています。

具体的には、空き家バンクによる情報発信・収集の充実や空き家の活用を促す、あるいは危険になる前に除去させるためのインセンティブ制度の検討を進めてまいります。また、空き家の所有者等に管理が行き届かない状態にさせないように、相談窓口の充実、所有者向けの啓発セミナーの開催、司法書士会など空き家管理に関する民間団体等の協力体制の構築を目指します。

さらに、周辺住民への生活環境への影響を及ぼす状態となってしまった特定空家等に対しては、固定資産税の取扱いや除去へ向けた指導・勧告、代執行等の手続が適切に行われるよう体制を整えたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） すごく前向きに、やはり進めたいかということが分かりましたけど、このことについては全く市民には伝わっていかないんですね。広報こさいでもお知らせしてくれたりとかしてるんですけど、本当に地域住民たちに空き家が増えていても、今、自分のところも空き家になりそうとかかそういう思いを持っている人たちに伝わりやすく、やはり職員さんたちが各地域に回っての説明会みたいなのをしていかないと、なかなか地域住民の不安というのは取り除かれないのかな。私たちもそうですけど、議会報告会しても人が来るわけではないのであれですけど、せめて各地域の自治会さん等にも一応こういう空き家対策計画できて、これからこういうふうに進めていきたいんだよ、固定資産税が上がるということだけはみんなすごく関心は持っていくと思うんですけども、空き家についての相談窓口はどこそこにありますよとか、やはり本当に住民に、市民に寄り添った市でいてほしいんですよね。だからどうなんだろうかね、私は今の職員が全然外に出てないよっていうことは言いませんけど、もっと地域の人たちと密着してもいいのかなって思うんですけど、市長の考えはどうですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員、再質問ありがとうございます。

空き家の対策の基本的な考え方は、やはり私、商業地といわゆる集落、ちょっと切り分けて考えたほうがいいかなと思っています。ただ、ちょっと竹内議員と考え方が違うかもしれませんが、竹内議員はなるべく職員さんがいろんなところに出て行って、空き家対策やりましようと言うことが必要なのではないかということをおっしゃっていたと私は認識しましたが、ただ私は逆に、やはり湖西市で成功している空き家対策、あとは市外の成功している空き家対策って、やっぱり地域からお声が出るケースがほとんどなんです。例えば湖西市内においては、平成28年の頃に、それこそ楠議員が音頭を取っていただいて一生懸命、地域の泉町の町内会長さんですとか、

あとは商業者さんも絡めて空き家マップをつくって、多分あのときの活動が結構私は今の新居関所周辺の活性化につながっているなと認識をしております。あとはそれこそ先日、湖西市の商工会の大津屋さんの土屋さんがお亡くなりになってしまいましたけども、実は土屋さんも鷺津駅前の空き店舗対策ということではとっても汗をかいていただいて、私たち含めて若手に声かけて一緒に空き家を一緒に埋めていこうよということで、自らやはりどここの空き家は誰々が今持っていて、貸してくれる、貸してくれないも含めてやっぱり民間の方々が汗をかいていたいたおかげで、地方の6万人のJRの駅としては鷺津駅は比較的明るいといいますか、店舗があるというふうに認識をしております。ですので、やはり地域の方々からお声を上げていただくということが私はとても必要だなと思っておりますので、なので行政がやれることというと、もちろん市の職員さんが一生懸命考えていただいている問合せがあったときの情報提供の、今整えていただけてますけども、あとはいろんなこういう事例がありますよということはお伝えすることは私は効果はあるなと思っておりますので、ぜひ皆様、地域の皆様、立ち上がってくださいというような働きかけをする必要はあるのかなと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 私が言いたかったのは、空き家があってどこの人たちでもあって、全然見にも来ない、手も入れてくれない、本当に困っているという空き家があることが、今地域の人にしてみれば困ってるわけじゃないですか。だけど、今度の新しい計画したときに、空き家の相談の窓口とか空き家バンクっていうのがあるよとか、そういうのを全く知らないんですよ、住民は。だからそういうふうに、私の近所の不動産屋さん通ったときも、空き家についての相談承りますとかいろいろ書いてあったからいいな、本当になって思いました。だから、別に市役所職員に毎日っていうか、常時、空き家問題について歩きなさいっていうことを言ってるわけじゃないんですよ。要は、行政から発信しなければ伝わら

ないということを言ってるの。だから、まず行政が年度初めなら年度初めに、いいですよ、連合自治会に言って。

○議長（馬場 衛） 竹内議員、申し訳ないですけどちょっと深く入り過ぎますので、所信表明からちょっとずれてますので、修正をお願いいたします。

○14番（竹内祐子） そんなわけですので、要は市がやって民間に任せられるところは任せていくっていうふうに頭を使ってやればいいと思います。

では、次へ行きます。

○議長（馬場 衛） 質問の途中でですけど、申し訳ありません。1時間をちょっと経過しておりますので、ここで暫時休憩とさせていただきます。再開を11時15分、よろしくお願いいたします。

午前11時03分 休憩

午前11時15分 再開

○議長（馬場 衛） 休憩を解いて会議を再開いたします。

引き続き、14番 竹内祐子議員の質問を続けます。質問事項の6番目からとなります。竹内議員、どうぞ。

○14番（竹内祐子） お願いします。6、道路や公共スペースを花や緑で飾る景観づくりに取り組むようですが、その手段を伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

道路や公園等の下段の一部では、花の会を中心とした民間団体の皆様が、ボランティアにより維持管理を行っている認識しています。私は、こうした市民の皆様が主体的に関わる花と緑を育む活動が、日常生活に安らぎと潤いをもたらすとともに、身近な地域の良好な景観づくりに寄与するものと考えています。

一方、近年では花の会の団体数の減少や会員の高齢化により、こうした花壇は年々減少している状況であることも承知しております。今後は、これまでの花の会に加え、商工会や商店街組合などの団体にも呼びかけを行い、花と緑を育む担い手を確保する

とともに、地域ぐるみの自主的な活動への支援策も検討するなど、安らぎと潤いのある景観づくりに取り組んでまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 今御答弁があったように、本当に花の会の会員の高齢化と成り手不足で、ちょっと花壇に植えられていないところも見られるようになってきました。本当にいろんな団体さんにも声をかけていたわけですが、なかなか皆さん、自分の団体活動を維持するだけで大変だということで、なかなか賛同してくれる方たちがいなかったわけですが、また商工会さん等にも呼びかけをしていただけたということで、新たな取組になるのかなということと、企業の皆さんたちにもお声かけをさせていただいたりとか、本当に湖西市役所自体も本当だったら若手職員さんたちで、交流を兼ねながら花壇づくりなんかもしていただけたとコミュニケーションも生まれてもっとよくなるんじゃないのかなと思いますんで、あの手この手で湖西市、本当に湖西市きれいですよ、花や緑で車の運転しててもちょっと癒やされますし、このままの景観を維持していただきたいなと考えております。

それで、やはり私たち委員会もいろいろ提言を出させてもらったりするんですけど、やはり花を維持管理していくためには水やりとかあいうものが大変なので、そういう整備だけは市のほうで準備していただいて、やってくれる方たちの負担が軽減されるように、そういう配慮をお願いしていきたいと思います。

この事業をやるに当たって市長としては、年に2回、環境フェアがあるんですけど、市として花の会さんたちが頑張ってるよみたいなPRするような、そういうような何かそういう思いってありますか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員、再質問ありがとうございます。

花の会の皆様には、心より感謝をさせていただいております。例えば今後、広報こさい等で取り扱っていただけたらとか、頑張っている活動というのは

また市民の皆様により理解をしていただけるといいなと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 頑張っている活動をみんなにPRしていただいて、この間、私たちが調布市にも行ってきただけですけど、1人でも2人でも花の好きな人たちがちょっとしたミニ花壇をつくってくれたりとかしてるんで、本当に花の好きな人が増えればいいなと私は思っています。

では、7番目に行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○14番（竹内祐子） 公約3、「湖西市を元気にする」では、企業誘致や商工会等と連携したスモールビジネスの開業支援に取り組むとありますが、具体的にどんな企業の誘致や商工会をどう支援するのか、伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

企業誘致については、市の産業基盤を強化し、雇用創出につながる企業の誘致を重点的に進めてまいります。

具体的には、市内製造業と連携可能な関連企業を中心とし、また、例えば観光産業やファッション、デザイン分野など、女性や若年層が取り組みやすい事業分野にも誘致活動を展開していきたいと考えています。

次に、スモールビジネスの開業支援につきましては、商工会や金融機関と連携し、必要な時期に必要な支援が受けられる環境の整備を進めてまいります。

具体的には、商工会が持つ豊富なノウハウやネットワークを活用し、起業を希望する方の経営相談やセミナーを通じて、事業計画の立て方や運営の基礎を学べる機会を提供してまいります。これらの取組を通じて、地域経済の活性化と市民が挑戦しやすい環境づくりを進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） これも商工会さんとやっぱり

連携してやっていく、あとは融資の関係で金融機関さんとの連携ですよ、本当に湖西市には観光産業というものがないので、私も思っていました。

遠州森町にはアクティ森っていうのがあって、そこではおいしいレストランもあったり体験工房もあったりとかして、遠州森町の観光の一つにもなるのかな、そういうふうにして要はテーマパークじゃないけれども、そこで体験しながら食事などができて楽しめる一角、今、新居弁天のところでパークビレッジから海湖館のほうをやってるんで、湖西市もあの辺がそういう遠州森町みたいになるのかなって、私は思ってます。やはり一年中楽しめるようにしていかないと、なかなか観光産業としては運営していけないので、やはりそういうところもしっかりとタッグ組んでやっていただけるといいなと思います。若い人たちは、天竜浜名湖鉄道を言っただけじゃありませんけれども、天竜浜名湖鉄道に売店が昔は天竜のものなとか、ああいう高齢者が喜ぶようなお土産品を売ってたのが、東京のほうの会社と経営してエヴァンゲリオンとかっていう若い人たちが喜ぶようなキャラクターグッズを並べて、天竜浜名湖鉄道も利用してもらってそこで土産も買ってもらうっていうような手だてをしてるので、やはり湖西市もそういうところを負けないように、やはり新しい市長になったんでよろしく期待したいと思います。

では、次へ行きます。

○議長（馬場 衛） 8番ですね、どうぞ。

○14番（竹内祐子） スマート農業化の支援とは、具体的にどのようなことをお考えか伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

トラクターの自動運転など、スマート農業化を進めるためには農地の整備が必要不可欠です。しかし、農地を貸借して耕作している農業者が大半を占める現状において、農業者自身で農地を整備することは非常に困難な状況にあります。この課題を解決するため、市や湖西用土土地改良区、県が連携し、大区画化や農業用施設の整備などの環境整備を進めています。これにより、農業者がスマート農業を導

入しやすい環境を整え、農業の効率化と持続可能な発展を支援してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます。本当に近頃、草刈りも自走じゃないんですけど湖西市の草刈りもトラクターみたいなああいう自走運転で、土手っていうんですかああいうところの草刈りをしていて、本当に感心してしまいました。お値段は高いかもしれないけれども、本当に高齢化で草刈り大変な時期になってますので、やはりそういうものを団体で取り入れてもらって、ぐるぐる回していけばすぐ元が取れてくると思うんですよ。ですので、今農業の中では自動運転のトラクターとか、ドローンで消毒はしょっちゅうやってますよね、いろんなことをやっていて、個人で持てないようなものはそういう組合形式でやって、湖西市の農業を高めてもらいたいと思うんです。

湖西市って結構農産物いいんですよ、すごく。冬キャベツなんて結構トップクラスだし、パレイシヨなんかも有名だし、サヤエンドウとかいろいろおいしいものがあって、自給的な農業者が半分ぐらいで、あとは本当に農業経営でやっているところが半分っていうような形になってると思いますけれども、南部のほうでは野菜づくり、北部のほうではかんきつ系とか花卉類をやっているんで、この形態をバランスよく整えてもらって工業のまち、それから観光のまちっていうふうになると、すごく魅力的な湖西市になっていくと思います。ですので、農地整備については土地改良区とか、本当に県と連携しながらよりよく、いい農業用地がありますのでそこは湖西市の財産として維持していつてもらって、もしか何かあったときには自給自足できるような体制を整えていただきたいと思います。

では、次へ行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○14番（竹内祐子） 観光についての市長の具体的な考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたしま

す。

質問では具体的な考えということで御質問いただいたんですけど、ちょっとその前に私が観光政策を考えるときの考え方というのを、ちょっと今答弁をさせていただければと思います。

観光政策を考えるとときに大切なのは、観光地域マーケティングという考え方です。つまり、地域を初めて訪れる人やリピーターを増やし、地域の経済効果や住民満足度を向上させる仕組みづくりのことで

す。仕組みをつくるためには、まず既存の旅行者がどのような属性で、どのような行動を取っているかを知ることが重要です。その上で、旅行者を細分化し、湖西市が狙うべき旅行者を特定し、湖西市が提供する価値を提示します。一般的にSTPとされています。セグメンテーション、ターゲティング、ポジショニングの3つです。そして、湖西市を訪れている旅行者を深掘りしてリピート客化し、強みを伸ばす目線と、現在は取り込めていない旅行者需要を取り込む目線の両方で政策を考える必要があると考えます。その上で、民間事業者と協力し、観光商品やサービスの造成に向かっていくのが正しい姿だと考えています。

本市の観光面での強みは、浜名湖や太平洋、湖西連峰といった豊かな自然と豊かな食、新居関所をはじめとした歴史文化の厚みなども考えています。

湖西市の観光基本計画というものがありますが、私これは非常によくできていると認識をしていますので、この計画に沿ってこれらの強みを生かし、先ほど申し上げた観光マーケティングの考え方で政策を進めれば、観光交流客数や消費額も増えていくと考えています。しかし、滞在日数を増やすためにはホテルのこのレパトリーの少なさが私は課題だと思っています。ですので、ホテル誘致に取り組みたいと考えています。

実は、このホテルに関しましては、海外の旅行会社の方に聞くと必ず言われます。私、特に台湾と縁が深く、県議会の台湾の窓口をやっていたので、台湾の旅行会社さんとも厚意にさせていただいてるんですけども、必ずみんな言われます。それは

湖西市だけではなくて浜名湖の観光の課題ですね、浜名湖はとても自然資源が豊かで食もあって素晴らしいところです。アクティビティもありますと、ただやはり特に高価格帯のホテルが少ないので、特に海外の旅行会社の富裕層担当はホテルがないので、悲しいことに浜名湖には送れませんと言われてしまいます。ですので、ここにてこ入れをするというのが私は観光にとって大きなことだと考えています。

さらに、インバウンドの受入れにも力を入れていきたいと考えております。インバウンドのお客様が本市に訪れた際に、多言語対応された湖西市の観光情報などを、自身のスマホやタブレットなどで簡単に見ることができるよう、デジタルマップの導入や案内所の設置などを検討していきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） すごい構想ですね、いいですねとっても。これが一年一年進んでいけばいいかなって、本当に理想的に思います。その中で、本当にホテルそれから食べ物屋さんですよ、食、おいしい食べ物、やっぱり旅するとおいしいもの食べたくになりますので、それで景色のいいところで食べられればもっといいですね。

今、日本人は意外とキャンピングカーとか、コロナがあったせいかどうか分かりませんが、自分の友達にもキャンピングカーでしょっちゅう旅している定年退職した者がいますけれども、やはり今ホテルじゃなくてキャンプしたりとか、そういう人も日本人系には多いんですね。湖西市もキャンプ場できてきてるのでいいと思いますけれども、本当に食物いろんなものが、本当においしい食物いっぱいたくさんありますので、食事どころをうまく増やしていければ本当に観光が結構伸びてくるのではないかなと思います。

それからやっぱり、お土産になるものを開発していく、今日の新聞にもすわまのクッションとか枕とかが出てましたけど、そういうふうにして湖西市民もやっぱり自分たちの町をよくしていこうという思いを持ってもらって、いろんな発想で、行政だけじ

やなくて市民もみんなで湖西市を盛り上げていこうねみたいになっていくととってもいいかなって、今市長の話を聞いていて本当に思います。

市長は何に関してもデータ分析好きですね。確かに、数字はうそをつきませんので、ぜひいい結果が出るようなものにつなげていってもらいたいと思います。

では、次へ行きます。

○議長（馬場 衛） 竹内議員、残り時間が。

○14番（竹内祐子） 3分ね。

○議長（馬場 衛） よろしく願いいたします。

○14番（竹内祐子） スピードで行きます。

公約4の「学びと子育て環境を整える」では、農・漁業の体験学習を取り入れたいようですが、具体的にどのようにするのかを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 竹内議員にお答えをいたします。

私は子供のときに自然に多く触れることで五感を刺激し、好奇心を育み、心身の成長に効果があると考えております。自然豊かな本市において、体験学習をこれまで以上に取り入れることは、子供たちの創造性とチャレンジ精神を育むことができると確信をしております。

現在、農業体験は多くの小中学校において農作物の栽培を行っていることは承知しております。今後は、教育委員会を通じて各学校の体験学習の状況やニーズを十分に把握します。校長が教育課程の中で体験学習の実施を検討できるよう、必要な支援や環境整備について、総合教育会議の場で意見交換を行い、教育長や教育委員の皆様の御意見を尊重しながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） ありがとうございます。本当にいろんな体験ができると思います。

私が思うには、だんだん少子化になって学校規模も小さくなってきていて、学年なんか特に小さくなってきてるんですけども、やはりもし全校でやることができなければ、学年それぞれのいろんな学校

が一緒になって一つの畑を使って農業体験するっていうのも湖西市の子供たちの交流の場となって、すごくいいのかなって思ったりもしていますので、いずれいろんな学校がきっと統廃合されちゃうと思うんですよね、だからみんな湖西市一つだよみたいにやっていくのもいいのかなっていうふうな考えも持ってますので、またいろいろ教育会議でいろんなお話をさせていただきます。

では、次へ行きます。

○議長（馬場 衛） 最後の質問になりますね。

○14番（竹内祐子） 11、そうです。

入所待ち児童の解消についての具体的な手段を伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 私としては、民間保育施設の新設や既存保育施設の定員拡充を進めることで、入所枠を確保してまいりたいと考えております。特に、民間保育施設の新設につきましては、令和10年度の開設に向け、令和7年度の早期に事業者を公募してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 竹内議員。

○14番（竹内祐子） 民間保育施設については、私も理解してるしあれなんですけど、この間ちょっとふれあいポストだったかなを読んで、入所待ち児童っていうののあれも書いてあったところなんですけど、要は鷺津保育園が閉園になって公立の保育園ないんですよね。岡崎と新居のところにこども園を設置してるんですけど、何で鷺津地区にはないのっていう不満の書いてあったんです。そういうお話でした。鷺津には鷺津幼稚園があります。でも今、幼稚園の入所児童も減ってきてるんで、私は民間もいいと思うけど鷺津地区に公立も欲しいよっていう声があるということだけは、市長は頭に入れておいてほしいなと考えます。民間さんは民間さんのカラーがありますけど、公立は公立のカラーがあるんでぜひとも御検討をお願いします。

終わります。

○議長（馬場 衛） 以上で、14番 竹内祐子議員の一般質問を終わります。

次に、5 番 柴田一雄議員の発言を許します。

〔5 番 柴田一雄登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは5 番 柴田一雄議員、どうぞ。

○5 番（柴田一雄） 5 番 柴田一雄です。通告書に従いまして、市長所信表明についてを主題に一般質問をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

質問しようとする背景や経緯ですが、8 年ぶりの新市長誕生は、12月16日に行われた市長定例記者会見の中で発表された「みんなが選んだ湖西市五大ニュース2024」におきましても、市民の投票数第1 位が「湖西市長交代。影山市長から田内市長へ」が選ばれた結果でも明らかなように、田内新市長の市政運営に向けたかじ取りには、多くの市民の皆様が注目しているところでございます。

質問の目的ですが、所信表明で述べられた選挙公約における4 つの柱の内容につきましては、私がこれまで所属してきました常任委員会におきましても重点的に取り組んできた項目が含まれており、新市長の方針を確認いたします。

それでは質問事項に入らせていただきます。

1 つ目は人口減少対策でございます。

市長は、これまで県議会議員として約14年間活動をされてきましたが、その間の湖西市の人口減少をどのように捉えていたのか、そして今後の施策にどのように生かしていくのか、お考えをお伺いいたします。お願いします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 柴田議員にお答えをいたします。

人口減少については、定住促進につながる取組を強化すべきであるとの意識を持っております。湖西市の人口動態の特徴として、出生数が大幅に減少し、死亡数が年々増加している少産多死の時代を迎えていることや、若者が進学や就職などを機に市外へ流出する一方、製造業が盛んなため男性が就職を機に

市内へ流入している点が挙げられます。その結果、若年女性の比率が県平均よりも少なく現れる傾向にあると認識をしております。

県議会議員としての活動を通しては、県内では長泉町が特に印象に残っています。長泉町では、魅力的な自然がありつつ首都圏に近いことで就労できる職業が多いことや、交通の利便性を生かすことで人口増加につなげてきたと考えております。これらを踏まえ、今後、湖西市の持つ地域資源や特性を最大限生かし進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 柴田議員。

○5 番（柴田一雄） ただいまの答弁で、市長がこれまでの県議会議員としての約14年間の活動の中で、長泉町が非常に印象に残っているというような御答弁ございましたけれども、長泉町につきましては昭和60年以降、人口が増え続けているということで、答弁にもありましたように魅力的な自然があるというようなことですか、また施策のほうを拝見してみますと、企業の誘致ですとか魅力的な子育て施策というところもございまして、湖西市にも通じるところがあるのかなと私も考えておりますので、また市長の施策の実行に期待をしたいと思っております。

しかしながら、当市の人口につきましては国勢調査によりますと2005年をピークに減少一途であり、歯止めが利かない状況であります。一方では、第6次湖西市総合計画で記された計画にありますように、国勢調査を基にした現状推移に比べると、各種施策の実施により減少が緩やかに抑えられているとも受け取れる状況ですが、今後の具体的な施策への展開はどのように図っていくのか、お考えを聞かせてください。お願いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 柴田議員、再質問ありがとうございました。

人口減少に関しては私も止めたいと考えています。やはり、そのためには大きく2 つやらないといけないと思っております。失礼しました、3 つですね。まず公約にもありました公共交通、湖西市内どこにいても行きたいところに行けるというような状況

を確保することが、町全体のクオリティを高めることだと思っております。そしてもう一点が、やはり安価な宅地の供給です。やはり今、湖西市内の宅地は少なく、よく豊橋市と浜松市の不動産屋さんにも言われるんですけど、湖西市、宅地が高いよねというお話もいただきますので、やはり鷺津中学校区、岡崎中学校区だけではなくて、新居の高台ですとか北部、南部、そういったところにやはり宅地を供給をしていくということが私は人口増につながると思っています。

あともう一つは、これもちょっと公約で申し上げましたけどもやはりにぎわいづくりといいますか、ちょっと抽象的で申し訳ないんですけども、特に市街地が若者とかファミリーにとって魅力的になるってというのはとても大事ななと思っています。やはり、海外を見たときに人口が6万人ぐらいいてもとても駅周辺ってにぎやかなんですよ、日本と決定的に違うのと、いつも仕事で海外に行かせていただくと県会議員のときに感じていました。ですので、まちのにぎわいというものをいろんな民間事業者さんと協力をしてやっていくというのが、私は必要だと思っています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 柴田議員。

○5番（柴田一雄） 非常に市長のお考え、またこれまでの知見が素晴らしいと思います。所信表明でもありましたように、またただいまの答弁でもありましたけれども、人口の減少を食い止めというような発言ですとか、ただいまも人口増加に向けてというような話がありましたけども、これまで本市といたしましては緩やかな減少に抑えていくというような、そういった総合計画の目標であったのかなと私も認識しておりますけども、今後は本当に湖西市、人口増加を目指してかじを切っていくんだというそういう前向きな意気込みでよろしかったでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

今、柴田議員が言うとおりの、緩やかな減少という表現になってますので、いきなりそれをV字回復と

いうのはなかなか困難だと思いますが、少なくとも均衡する、要は減少をなくすということは私は目指していきたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 柴田議員。

○5番（柴田一雄） 承知いたしました。今後の展開に期待したいと思います。

それでは、2番の質問に入りたいと思います。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○5番（柴田一雄） 2番の質問ですけども、先ほど先輩議員の答弁ですとか同僚議員の答弁にもありましたので、少し内容だけ触れさせていただきたいと思います。

空き家対策でございますけれども、私が所属しております建設環境委員会におきましても空き家対策につきましては先進市の視察や勉強会を重ねるなど、重点的な取組として活動を行ってまいりました。

先ほどの市長の答弁にもございましたように、当市といたしましては令和6年7月に第2次湖西市空家等対策計画が発表されました。具体的な空き家バンクの活用ですとか空き家の除却、そして管理の後押しとなりますインセンティブの確立といったようなものにつきましては、先ほど市長のほうから答弁がございましたので、こちらに関しましては市長の実行力に期待をしたいと思いますので、御答弁は結構でございます。

それでは、3番の質問に入りたいと思います。

こちら先ほどの先輩議員の答弁にも質問、答弁ございましたけれども、少し具体的なことに触れさせていただけたらと思いますので、よろしく願いいたします。

3つ目の質問でございますけれども、豊かな自然環境や美しい集落景観の魅力をより一層磨き上げるとの方針の中で述べられた「道路や公共スペースを花や緑で飾った景観づくりについて」でございますが、こちらの内容につきましても私が所属しております建設環境委員会におきましては、花と緑のまちづくり推進事業につきましては、事務事業評価の評価対象事業として取り組み、花いっぱい運動の先進地を視察するなど、調査研究を重ね、12月20日には市長

へ建設環境委員会として提言をさせていただいたところでございます。

提言の趣旨や背景といたしましては、日頃から道路や公共スペースを花や緑で飾ってくださっております花の会の会員の皆様やボランティアの方々の高齢化、会員の減少により管理できない花壇が増えて、また猛暑での作業負担など課題が多く、花壇の規模縮小もやむを得ない状況があるのではないかなというようにも検討したところでございます。

先ほどの先輩議員の答弁の中では、今後、花の会の会員の皆様方への呼びかけや商工会、また企業団体への呼びかけを行うなど、また広報こさいでの広報活動などといったことも御答弁をいただいたかと思えます。

そういった中で一つ確認をさせていただきたいんですが、今後このような花の会の会員の皆様ですとか、実施に現場で作業に携わってくださっている方々、そういった方々のやりがいですとか達成感の促進、また負担の軽減、そういったものにつきましては市長はどのようにお考えでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 柴田議員、再質問ありがとうございます。

皆様のすばらしい活動をお知らせするというのは、先ほど竹内議員のときにお伝えをしましたので割愛はさせていただきますが、負担の軽減ということに関しましても、これからまた担当の課員とともに検討をしてみたいと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 柴田議員。

○5番（柴田一雄） ぜひ、現場で作業に携わってくださっている方々に寄り添った事業展開を期待したいと思います。

以上の質問を通して、市長の意気込みを再確認することができたと思います。これまでの民間の経験、また約14年間の県議会議員としての知見と経験を生かした新市長の新しい視点、そして決断力が市民と行政、そして議会との連携を深め、湖西市に新たな風を起こしてくれるリーダーシップに期待しております。

以上で私の質問を終わります。ありがとうございました。

○議長（馬場 衛） 以上で、5番 柴田一雄議員の一般質問を終わります。

次に、13番 佐原佳美議員の発言を許します。

〔13番 佐原佳美登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは13番 佐原佳美議員、どうぞ。

○13番（佐原佳美） 13番 佐原佳美でございます。主題は市長所信表明についてです。

質問のしようとする背景や経緯ですが、市長の所信表明演説を拝聴し、4つの柱について選挙公約時のものですが、より具体的なお考えを確認したいと思いました。

質問の目的は、市民の暮らしやすさをニーズに即して推進してほしいためです。

では、質問に参ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○13番（佐原佳美） 1、「命を守る」という柱のところで、地震・津波対策で実態に即した避難訓練の実施や福祉避難所の設置について、どのようなお考えかお伺いいたします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 佐原議員にお答えをいたします。佐原議員におかれましては、とても地域に密着した防災対策というのを実行されていると認識しております。本当に敬意を表したいと思います。

地震・津波対策における実態に即した避難訓練の実施については、先ほどの御質問にもお答えしたとおり、例えば沿岸地域ではスマートフォンを活用し、自宅から最寄りの避難施設までの避難訓練を行い、避難時間や避難速度などのデータを収集・分析し、避難に関する課題を洗い出すことで逃げ遅れのない体制を構築するなど、それぞれ地域の実情に合った訓練ができるよう、地域と一体となって取り組んでいきたいと考えております。

また、福祉避難所については、利用可能な施設の

確保、物資・器材の備蓄、専門人材の確保、運営体制の整備が課題であります。こちら福祉避難所に関しましては、能登半島の地震においてもとても大きな課題だと認識をしております。実は、私はちょっと県議会のときに能登半島地震の対応を会派の役員としてやっていたわけでございますけども、私自身は能登半島に視察には行けなかったんですけど、会派として仲間の議員を派遣をいたしました。その中でも、やはりこの福祉避難所の設置というのは大きな課題だという報告を受けまして、どんな状況なのか伺ったら、指定はしてあるんですけどもそもそも開けなかったと。なぜかという、指定してある例えば特別養護老人ホームさんなり、介護事業所は中の入所者さんの対応だけで手いっぱい、とても外から受け入れられる状況じゃなかったというところが多数あったそうです。ですので、そういったことも踏まえながら、やはりしっかり課題を認識して対策を取る必要があるかなと思っております。

今後、実際に避難所となる事業所の御意見を聞きながら、公的機関、社会福祉施設、医療機関、民間企業など多くの方のお力をお借りして、こうした課題の解消に取り組むとともに、一般避難所における要配慮者の心身の健康の確保についても環境整備を進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） ありがとうございます。まず、避難訓練のことと福祉避難所のこととちょっと分けて再質問させていただきたいんですけども、その避難訓練っていうのは、9月議会のときに私が要配慮者とか要支援者という方たちの実際のリアルな避難訓練を、現場、自治会等とやるべきではないかということをお伝えして、実際、当局のほうも検討していただいていたいて、早速にその後、入出地区で「ひなんさんぽ」という土砂災害対策用の避難訓練も実施されて新聞報道もされていまして、進めていただいて感謝してるところなんですけれども、本当に医療的ケアの方たちとかケア児者、そういう方たちが発災したときに自治会の方たちに、私の住んでいるところでも本当に車椅子で生活されてる方で

も自治会として援護してほしいですか、支援してほしいですかという情報収集するんです。でも、その家からは手が挙がってこないんです。なので、いろんな障害とかその御家庭の事情もあると思うので、リアルな訓練に拡大して行ってほしいんです。土砂災害用の「ひなんさんぽ」は実施されましたけれども、今後そういう障害をお持ちの方、高齢者のみならず、妊産婦も含めたそんな避難訓練の計画は推進していくというお考えでよろしいでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 佐原議員に、再質問にお答えをいたします。再質問ありがとうございます。

私も佐原議員と全く同じ認識でして、要配慮者。特に、医療的ケア児のお話が出ましたけども、ちょっと防災とは別の切り口でも、その医療的ケア児の方々が湖西市内にどこにいらっしゃってというところまではしっかりと把握ができてないっていうのが現状でありまして、これ湖西市だけの課題ではなくて県全体の実は課題でございます。これに関しましては、県から各35市町に対して、一緒にまずは現状把握をしましょうということで今動き始めているところでございます。湖西市でもしっかり受け止めて、やるということで私も認識をしておりますのでまずはそこからだと思います。どちらにいらっしゃってどのような状態かと、これは本当に各地区のお力を借りなければいけないと思うんですけども、じゃあ実際、津波の浸水区域で津波が来たときに、どなたが助けにいてくださるのかと、そこまではとても今の体制では公助というものは手が回らないと思いますので、やはりそこは地域の方々に協力をいただくしかないかなと思っております。医療的ケア児の方含めて、要配慮者の方々をどうやって救うのか、おのおのしっかりと計画を立てる必要があると思っておりますので、行政としてもそういった先進地域の取組というものは情報提供をして、促していきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） ぜひともよろしくお願いいたします。うれしい答弁です。ありがとうございます。

○議長（馬場 衛） 今チャイムが鳴りましたので、福祉避難所のところから再開のときには始めたいと思います。

それでは、ここでお昼の休憩とさせていただきます。再開は13時とさせていただきます。

午後0時00分 休憩

午後1時00分 再開

○議長（馬場 衛） 休憩を解き会議を再開させていただきますが、冒頭お願いを申し上げました今回の一般質問は、所信に係る質問でございます。その旨を十分御理解いただきたいと思いますし、また重複する質問もかなり多く出ております。当初申し上げましたとおり、13名の質問が終わるまでは今日続けていきたいというふうに思っておりますので、御理解と御協力をお願いいたします。

それでは、13番 佐原議員の福祉避難所の質疑から入らせていただきます。それでは、13番 佐原議員よろしくお願いいたします。

○13番（佐原佳美） 議長、ありがとうございます。では、午前に引き続きまして、13番 佐原佳美ですが市長所信表明の質問を続けさせていただきます。

1番の「命を守る」のところでの前段で避難訓練のお話を伺いました。そして福祉避難所の設置運営についての御答弁でしたが、の中で施設の確保というところがありまして、今現在5か所の福祉避難所がありますけれども、今後は先ほどの御答弁の中に民間企業などというところとも協議していく、多くの方の力を借りてという御答弁内容がありましたけれども、今後、福祉避難所を増やしていくという思いもあるということでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 佐原議員、御質問ありがとうございます。

施設を増やしていくかどうかということに関しては、今後担当課とまた協議をしつつ、なおかつやはり各介護事業所さんとの話し合いも大事かと思うので、そこはしっかりお話を伺いながら増やしていくかどうかということに関しては、また今後検討をしていきたいと思います。

そしてやはり、まずは今指定をさせていただいているところともしっかり市と連携を深めることが大事かと思うので、そこに力を入れていきたいと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） 分かりました、ありがとうございます。現在の指定されている福祉避難所5施設と連携を取っていくということで、いろいろまた情報収集されると思いますが、私が今回のこの質問の前に、それぞれの施設長さんとお話しをさせていただきました。そこで、メールをいただいたりお電話だったり、直接お会いして聞いた内容をちょっと伝えさせていただきます。それらを加味して検討いただければという意味です。

以前、私が福祉避難所について、それぞれの特別養護老人ホームと浜名学園で5か所なんですけれどもアンケートを取ったことがありました、四、五年前に。そのときに、ある施設長さんは愛知県の方が本部のところで、愛知県では福祉避難所としての準備金というか予算をつけてもらって、紙おむつを買っておくだとか、そういう食料を確保する、そういうものがあるけども湖西市は出してもらえないのかっていうことに対して、償還払いしますという答弁があったんです。4年ぐらい前、四、五年前なんですけど、もちろん担当も市長も替わられておりますので、それを踏襲するとは限らないとは思いますが、やはり今回も言われたのは福祉避難所として指定されている以上は、やはり簡易ベッドだとかパーテーションだとか食料を備蓄しておきたいと、そのためにはやはり予算が欲しいということ、それとまた備蓄品を置いておく場所の工事をしたくてもやはりお金がない、とにかく資材が高騰しているので新たに何か工事を起こすというときに本当にお金がかかるんで、そのための前段階としての準備金が欲しいということは何か所かで言われました。

それと、あとは福祉避難所は勝手に開設することではないと思う。やはり、毎年出る冊子の資料編を見ますと、どうやって開設するかっていうと、それぞれの15か所ある指定避難所の中で、そこへ来た方

を専門職の立場の方が選んで、この方は福祉避難所へ行ったほうがいいということがあったら、それから数日後に福祉避難所に移動してもらうというそんな手順になっていたかと思うんです。けれども、いつ開設するかとかそういう連絡は、もし電気とか電話とか、電気というのはファックスだと思うんですけど、あるいはパソコンでとかそういう場合にどうやって通知を市からくれるのかということとか、あるいは食料は食料の支援があるとしたら何日後ぐらいに来るのか、どのくらい来るのかというのを把握できたらこちらの準備としてありがたいとか、やはりあとは費用のことというそんな御意見もありましたので、情報収集されればきっと同じようなことをおっしゃられると思いますけれども、参考までにお伝えしておきます。

では、次の2番のほうへ行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○13番（佐原佳美） 避難所へのエアコン設置に取り組むとありますが、指定避難所15か所への設置の計画はどのようにお考えでしょうか。

先ほど竹内議員等への御答弁もありましたが、すみませんもう一回お聞きします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 佐原議員の御質問にお答えをいたします。

ちょっと先ほどの竹内委員との答弁と重複をしてしまいますが、やはり避難所へのエアコン設置については熱中症対策としても重要であることから、積極的に取り組んでいきたいと考えております。

ただ、先ほども申し上げましたように整備には多額の費用が必要でありますので、具体的な設置の計画についてはより効率的に設置できるよう、財源の確保や施工方法等、効果的な手法についての調査と研究に努めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） 繰り返させて申し訳ありませんでした。そのようなことで、1番は財源かなと思っています。冒頭でもどなたがおっしゃったか、災害関連死が連日新聞の中で文字がたくさん出てく

るワードとして見出しで飛び飛び込んでくるんですけども、これで阪神・淡路大震災から17日で30年というところで、本当に災害関連死のことがクローズアップされて、さきの臨時国会でも新地方創生交付金に地域防災緊急整備型というものを新設して、国もエアコンだとか、トイレカーとかキッチンカーとか、そういう避難所の環境改善っていうものを呼びかけて、全国ですけれど4兆7,909億円を補正しておりますが、4兆円って聞くとすごいなと思いますけども、全国の1,700以上ある自治体に、またそこに掛ける学校の数、体育館の数とかいったらとても足りる額ではないと思いますので、ぜひともまた国会要望等、市長も言われてたかと思えますけども議員と一緒にやりていけたらなと思っております。

では次。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○13番（佐原佳美） 大きな柱の2です。「湖西市を暮らしやすく」公共交通について、夜間運行を行うとありますがどのように行っていくのか、市長のお考えを伺います。夜間タクシーが呼べないということで、市民の中にはそういう通説のようになっていて、浜松へ頼んでも行けませんという答えをもらうというその中ですごい朗報だと思ってお聞きします。

○議長（馬場 衛） 市長、答弁をお願いします。

○市長（田内浩之） 佐原議員にお答えをいたします。

現在、市で運行している乗り合い型デマンド交通のコーちゃんタクシーは、17時台に運行が終了していますが、現在は運行していない夕方18時台以降への運行時間帯の拡大を目指していきたいと考えております。

まずは、見込まれる市民の利用ニーズを的確に把握・分析した上で、民間の運行事業者との協議・調整や地域公共交通会議での議論を踏まえて、運行時間帯の拡大を進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） 分かりました。先ほどの答弁

と変わらないもので、夜間に関しては何かもうちょっと先に情報があるのかなと期待してお伺いしたというところで、分かりました。今後、本当にいろんなデータをとか、民間企業でのA Iの分析するものなどでしっかり取り組んでほしいです。特に、夜間困ると言われたのが、さっきの福祉施設の人たちが病院に利用者さんを搬送した後、ついていった職員が帰ってくる手だてがなく、施設長が毎回呼び出されて夜行かなければならないと、本当に何とかしてほしいというような要望も聞いております。

では、3番目お願いします。いいですか、質問。

○議長（馬場 衛） はい。

○13番（佐原佳美） 湖西市を元気にするということで、産業振興は重要であり企業誘致や商工会などと連携した、スモールビジネスの開業支援に取り組むについてのお考えはですが、これは山口議員、竹内議員がお聞きして答弁をいただいていますので、これは取り下げます。

3－5番のほうに行かせてもらいます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○13番（佐原佳美） 障害者雇用の促進で、就労施設の商品開発や販路開拓についてどのように行うのか、市長のお考えを教えてください。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 佐原議員にお答えをいたします。

これまで、本市においては主に就労継続支援や、就労移行支援の紹介等に取り組んできたと認識していますが、就労という形で社会参加の機会の確保や勤労意欲の向上のためには、魅力的な商品開発や販路の開拓・拡大のための支援も必要であると考えております。

支援方法といたしましては、商品開発に関する相談機会や小売店舗での販売機会の提供等が考えられます。事業所の実情を踏まえた上で、市内には様々な業種の企業が事業活動を行っていることから、こうした企業との接点を設けるため、商工会との連携を図ってまいりたいと思います。

1点付け加えさせていただきますと、これに関しても県議時代にたくさんの就労、A型ですとか

B型の施設から御相談をいただきました。御相談をいただいている中で、本当に現場の皆様はとても一生懸命頑張っているんですけども、なかなかやはりいい商品を開発するですとか、それをどうやって売っていく、先ほど観光のところにもお伝えしましたけどマーケティングの分野に入ってきますけども、なかなかその経験もないということで運営に苦しんでいるところがたくさん見てまいりましたので、そこは先ほども答弁させていただきましたけども、やはりプロの商工会の皆様ですとかそういった方々とタッグを組んで、こういった就労、継続支援の施設を助けていくということが必要ではないかなと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） ありがとうございます。本当に御存じだと思いますけど、新所原駅前のカフェひまわりさんが昨年10月で閉店になってしまいました。本当に障害ある方が作られた、もちろんスタッフも力添えて、おいしかったし本当に寂しい思いをしてるんです。そして、あそこでのクッキーなんかも子供たちのイベントにもらったりしたんですけど、今回は市内にないんで浜松市のほうでのクッキーをもらったりしたんですけども、なので本当にどういう商品をつくるかっていうことと、その前に今あるところも新たに就労支援事業所を増やすっていうことと、ノウハウがあるのに閉鎖しちゃったっていうね、あの方たち逆にスタッフでもそこが閉鎖になったから、その法人辞めたっていう方いるんですね、パン屋さんで働いていたのに。とてももったいないことで、やはり商工会にとっておっしゃったんでぜひとも期待しておりますので、よろしくお願いします。

では4番。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○13番（佐原佳美） 「学びと子育ての環境を整える」遊びの場の充実はということをお願いします。

○議長（馬場 衛） 市長、答弁をお願いします。

○市長（田内浩之） 佐原議員にお答えをいたします。

私は、市内には屋外の遊び場として新居文化公園や湖西運動公園といった、車で訪れたいくなる魅力的な公園があると認識しております。しかし、現在これらの公園では老朽化などの影響で遊具が減少したり、古い遊具が残っている状況から子供たちが屋外で元気に遊ぶ環境に課題があると感じております。

現在、新居文化公園においては一部遊具の更新を行っており、引き続き市内公園の遊具の更新を検討し、子供の遊び場を充実させたいと考えています。

また、現在整備中の表鷲津湖岸3号公園につきましても、市民の求める魅力ある遊び場、憩いの場を提供できるよう尽力してまいりたいと考えております。

屋内の遊び場としては、既存の新居子育て支援センターに加え、令和7年1月から新所子育て支援センター、令和7年4月から西部地区子育て支援センターの開設を予定しており、それぞれの施設内に遊べる場所ができることは承知しています。今後は、室内で遊べる場所を増やしていくとともに、屋内外を問わず、市内のどの地域に住んでいる方にも利用しやすい環境を整えていきたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） 最初のほうの方の答弁で、市長が長泉町の人口増の話なんかのところで、やはり子育てしやすいまちというものが大きくある、もちろん交通アクセスがよくて東京都内に通勤の方もいらっしゃるとかそういうこともあるとは思いますが、本当に地域を見ましても自治会で公園管理していると、年間1万円とかそういう補助金ももらったりはしてるんですけども、本当に遊具が今鉄棒しかないとか、何にもなくなっちゃってるっていう寂しい状況があります。だからどっちが早いか、子供がいないから遊具は要らなくなっちゃう、老朽化したら新たなものは設置してくれないのか、遊具があれば子供が増えるのかって、そう単純なことではないんですけども、新所で女河八幡のところに、私も知らなかったんですけど、あれは新所自治会でジャングルジムと滑り台が一緒になった遊具っていうのを自治会が設定していたそうなんです。でも今

回、点検のところで危険だということで、もう撤去するということを決めて、自治会は新たに自治会の費用でそういう遊具は設置しないということを決めて、この間、定例会でも承認を得たんですけども、本当にやっぱし自治会でやるというのは事故があったらとか、法定点検だとかとても難しいことなので、かといってお母さんたちに聞けば地域の歩いていける0、1、2歳ぐらいの子たちが遊べる場所も欲しいけれども、田原市だとか浜松市にあるような船の公園とか、そういう大きな公園が欲しいっていう声を、びよびよというおかさきこども園の福祉教育委員会で0、1、2歳の方たちが誰でも集えるという毎週月曜日やってるところに行ったらそれと言われました。いいところがあればみんな車で行くんですよ、よそへとね。本当に文化公園とか運動公園もいいんですが、そこを充実していただければいいところもあります。何としても少子化対策のためにも、こどもどまんなかという御存じのとりのワードがありますので、より充実をお願いいたします。

では7番。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○13番（佐原佳美） AIが最適な問題を提出するアダプティブラーニング教材の導入を研究するなど、教育のDXを推進とありますが、ネットで引けば載ってはいることですが、どのようにこのDXの推進を進めることなのか、お考えをお伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 佐原議員にお答えをいたします。

私といたしましては、AIが児童生徒の学習への理解度や習熟度を把握して、個別に学習内容を提供するアダプティブラーニング教材が、児童生徒の学習効率を高めるには効果的であると考え、教育施策の一環として具体的な施策に反映するよう、教育委員会に提案していきたいと考えています。

ちょっと佐原議員よりアダプティブラーニングって何ぞやということもありましたので、ちょっと補足させていただきますと、私が把握してる中で進めるのは、例えば宇都宮市なんかを導入をしている

教材が、このアダプティブラーニングの教材という意味では一番分かりやすいかなと思います。宇都宮市も年度で結構切り替えたりしてるんですけど、一番最初に宇都宮市が導入したのがたしか株式会社COMPASSという会社のキュビナというソフトだったと記憶をしてますけども、間違っていたら申し訳ないですけども、それが例えば一番適してるのは算数・数学だと思うんですけども、例えばお子さんが引き算の課題を解いていたとして、同じ引き算の課題を間違えるにしてもいろんな間違え方があると思いますね。例えば、分母のところをそろえられなかったとか、単純に計算間違いだとか、間違え方によって次に出てくる課題が違うんです。今そこまでいってまいりますので、要は個別最適化という言い方をされますけども、要は生成AIの技術を使って個別に課題がどんどん出てくる、そういったのが主にアダプティブラーニングだということで、ちょっと説明として付け加えさせていただきたいと思います。

今後は、現在導入している教材の活用状況や学習効果について、教育委員会における検討状況を注視しつつ、総合教育会議の場を活用して意見交換を図り、教育長や教育委員の皆様の御意見を尊重しながら進めてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 佐原議員。

○13番（佐原佳美） 教員が本当に多忙で、働き方改革が必要だっていうのは皆さん承知していて、採点するにも今は、知り合いの高校教師はAIによる採点の宿題を出す先生が増えている、特に若手の先生は。でも自分は、頑固として自分の目で見える宿題で自分が採点してるんですよという先生もいらっしゃいました。

そんな話を聞いたときに、うちに今小学校の3年と5年の小学生がいますが、中学生の宿題をちょっと見てないですけど、タブレットでの宿題がとてもというか半分以上かな今増えてます。分かんないから聞いてくるんですね、私はその問題を読むんですけど意味が読み取れないんです。だけど、子供は3択というか選ぶんで、多分こっちだと思うよって

言うと、正解もすぐ出るもんですから合ってた、子供はそれに慣らされてるというか、そういう出題の仕方。今は算数・数学の話でそれはよいかなんて思ったんですけど、国語力という面ではちょっとピンポイントの話で恐縮ですけども、まだまだ今後どんどんDXが開発、宿題の出し方とかも改善されてくるものとは思いますが、現状はとてあんまり褒められた内容じゃないように私は思っています。今の学校にもよって、学校によって採用してるものも違うかもしれませんが、その辺今も教育会議や教育委員会と御相談してということだったので、本当に現場の声をしっかり把握してもらって、先生たちが少しでも時間に余裕、ゆとりが取れることは大事だと思っています。でも今、子供たちの冬休みにしても何にしても採点は親がして学校へ持ってきます、宿題は。随分変わってますよね、昔とね。そこら辺も加味して、今後よろしくお願ひしたいと思っています。

私の市長所信表明に対しての質問は以上となります。ありがとうございます。今後ともよろしくお願ひいたします。

○議長（馬場 衛） 以上で、13番 佐原佳美議員の一般質問を終わります。

次に、1番 相曽桃子議員の発言を許します。

〔1番 相曽桃子登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは1番 相曽桃子議員、どうぞ。

○1番（相曽桃子） 1番 相曽桃子です。通告に従いまして、一般質問をさせていただきます。

主題は、市長所信表明についてでございます。

質問しようとする背景や経緯でございます。田内市長は、「魅力的な湖西市を子ども達たちへ」のキャッチフレーズの下、重点政策として「1. 命を守る 2. 湖西市を暮らしやすく 3. 湖西市を元気にする 4. 学びと子育ての環境を整える」の4つを掲げました。

湖西市は、公共施設の再編計画が現在進行中でございます。給食センター、消防防災センター、市役所、子育て支援施設、市立湖西病院、また学校の再

編と限られた財源の有効活用と堅実で持続可能な財政運営が求められています。そして、大きな決断が求められる事業が続いていきます。

質問の目的です。重点政策を実現するに当たり、具体的な方法について伺うためでございます。

質問事項に入ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○1番（相曽桃子） 1の「命をも守る」に掲げました市立湖西病院についてでございます。

先輩議員や同僚議員で、医師の確保や看護師確保については理解いたしました。が、外来患者の増加をはじめとする様々な取組、こちら少し触れてはいましたけれども、そちらについて市長のお考えのほうを伺いたいと思います。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 相曽議員にお答えをいたします。

医師確保については、先ほど御答弁をさせていただきましたが、当院が研修基幹施設となることで、研修医の受入れ強化を図ってまいりたいと考えております。

次に、外来患者の増加につきましては、患者さんの症状にかかわらず幅広く対応する総合診療科の医師が次年度、常勤予定であることから、当院が目指す湖西版「コミュニティ・ホスピタル」の実現を推進し、多様な市民の医療ニーズに応えることで、患者数の増加を目指してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 相曽議員。

○1番（相曽桃子） 今も新市立湖西病院建設基本構想検討委員会のほうが立ち上がって動いているところでございまして、コミュニティ・ホスピタルというふうなワードが出てきますけれども、市長は市立湖西病院がどんな病院でいてほしいかというところのビジョンがもしもあればお聞きしたいんですが、こちらの検討委員会に傍聴させてもらったときに、湖西市として市立湖西病院をどういうふうに今後していきたいかというのがあまり見えてこなかったも

のですから、市長が考える市立湖西病院のこれからというのはどういうふうな立ち位置で、どういうものが求められるっていうのを考えているか、もしも聞けたらと思うんですが、お願いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

湖西病院に関しましては、私も公約で掲げさせていただきましたので、実は今病院の院長先生なり経営の皆様と具体的な、大分踏み込んだお話をさせていただいているところでございます。ですので近々、議員の皆様、そして市民の皆様には私が湖西病院をこのように考えていきますという具体的なお話をさせていただきたいと思います。ただ、今この場でお伝えすることとしたら、当然地元の病院ですので必ず残していきたいと私は思っています。ただ、公立病院だからといって、経営の観点が外れてはいけないなと思っております。当然公立病院なんですけれども、やはり民間の経営感覚というのは必ず必要だと思っています。ですので、例えば市民の皆様から見て、救急ですとか小児ですとかそういった必ず守っていかなければいけないところと、優先度がそこまでは高くないそういった診療科もあると思います。そこにやはり手を入れていくことも含めて、私は相当な経営改革が必要だと思っておりますので、そこに関してまた具体的に皆様にお伝えをしていきたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。

以上です。

○議長（馬場 衛） 相曽議員。

○1番（相曽桃子） 昨年の12月1日、市立湖西病院で行われました災害救助訓練に、私もサポートナースとして参加させていただきました。市立湖西病院の役割としましては、通常診療だけでなく救急外来もそうですし、また災害のときの拠点病院としての機能、またコロナのような新興感染症が起こったときの対応など、本当に様々、予想できないようなことまで取り組んでいかなければならないという、非常に大切な機関であると私も認識しております。

今回は所信表明だけですので、具体的にはお伺いできないし、市長のほうもまた改めてというお言葉をいただきましたので、大変期待して待っております。

す。

そうしたら次の質問ですけれども、先輩議員、同僚議員の答弁で理解しましたので取り下げさせていただきます。

以上で私の一般質問は終わります。

○議長（馬場 衛） 以上で、1番 相曾桃子議員の一般質問を終わります。

次に、12番 楠 浩幸議員の発言を許します。

〔12番 楠 浩幸登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは12番 楠 浩幸議員、どうぞ。

○12番（楠 浩幸） 改めまして皆さんこんにちは、12番 楠 浩幸でございます。今回も元気に一般質問させていただきたいと思います。

せっかくですので、まずは田内市長、大分遅くなりましたけれども、市長への就任おめでとうございます。こういった立場でお話できる機会が、まさか来るとは思っておりませんでしたけれどもよろしくお伺いしたいと思います。

さて、昨年12月20日に行われました12月定例会初日におきまして市長からありました所信表明について、湖西市は人口減少や防災対策といった課題に直面をしており、市長は所信表明でこれらの解決に向けた4つの柱を示されました。しかし、国政では石破新政権が少数与党として合意形成を重視しているように、市政運営におきましても議会や市民との調整力が求められてくるものと思っております。限られた財源の中で、政策の優先順位や実現手法を明確にして、持続可能なまちづくりに向けた市長の具体的なビジョンを問う必要があると思ひまして、今回、一般質問をさせていただくところでございます。

市長が掲げた政策ビジョン「魅力的な湖西市を子ども達へ」と具体的な実現手法や、優先順位を明確にして市政運営におけるリーダーシップですとか、議会、市民との協力体制の構築方針を確認したいと思ひ、一般質問を行います。

それでは、1問目に入りたいと思います。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○12番（楠 浩幸） 私のほうからは5点ほど通告

をさせていただいておりますので、まず1つ目「命を守る」というところでですけれども、南海トラフ地震発生時における湖西市の被害想定と、復旧シミュレーションについてなんですけれども、現時点で市長が考える課題と市民に示せることができる具体的なビジョンがあれば、お伺いしたいと思います。よろしくお伺いします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 楠議員にお答えをいたします。

南海トラフ地震については、発生すれば甚大な被害が想定されていることから、まずは被害を最小限に抑えることが大事であると考えております。そのためには、事前の対策として住宅の耐震化、避難路の整備や迅速な避難行動を行うための住民の防災意識向上などが重要な課題であります。

しかしながら、被害そのものをなくすことは難しいため、静岡県第4次地震被害想定に基づき、復旧や復興について考えることは重要だと認識をしています。しかし、細かく復旧シミュレーションを緻密につくることは莫大な予算と労力を伴いますので、まずは緊急輸送路の確保や仮設住宅などについて、最悪の状況を想定して対策を練ることが必要だと考えております。

具体的なビジョンについては、昨年度策定した津波防災地域づくり推進計画に基づき、現在進めている減災対策の検討を基に、必要に応じて計画を改善しながら、今後、具体的な対策を講じていくことが重要であることから、これにより災害に強いまちづくりを実現し、地域の安全・安心を確保していきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） 基本的には災害に強いまちづくりということで、避難ですとかそういったところに重点を置いていくっていうふうに取り組みしました。

加えて、先ほど来、先輩議員や同僚議員のほうから避難訓練についてもお話が合ったわけなんですけれども、現時点で市長がお考えになっている現状の

避難訓練の課題のようなものがあれば。繰り返し、実態に即した避難訓練、裏返せば今まで少し実態に即していなかったんではないかっていうふうに受け取ってしまったんですけども、その辺り、課題をどのように認識されているか伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

その課題認識といたしましては、やはり湖西市内も地域によって、大分訓練のやり方というものに対しての、失礼かもしれませんがレベルといいますか意識の持ち方というのは違うなと思っております。その分岐点はどこかというところの訓練のやり方というのが、どうしても津波浸水域でないところのほうはまだ実態に即していないのかなと感じているところでございます。裏を返すと、やはり津波浸水域のエリアの皆様の方が高い意識を持ってやっていただいていると思っておりますので、結論としては津波浸水域じゃないところの訓練に関しましても、例えば単純に具体的に消火器持って消火してみるというのも大事なんですけども、プラスアルファ例えば、以前たしか新所だったと思うんですけども、実際避難所をつくってみて受け入れられるかやってみますとか、ああいったものは私はとても素晴らしいなと思っておりますので、まさしくああいうものが実態に即していると。あとはDIGとかHUGとかいろんなゲームを通してやる訓練も、私はとても効果があると思っておりますので、訓練のレベルも平準化というのが私は課題なのかなと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） そうですね、やはり津波浸水域に直面している地域とそうでない地域について、温度差があるっていうふうな認識をお持ちっていうことで理解をしました。

やはり浸水域でない地域においては、浸水域の方々を受け入れるようなそういったようなDIG・HUGのようなことも非常に重要だなというふうに思いましたので、そういったところをこれから地域の防災の皆さんと協議を進めていっていただき

たいなというふうに思いました。

1 問目はこれで終わります。

○議長（馬場 衛） それじゃあ、2 番目にどうぞ。

○12番（楠 浩幸） 2 番目です。「湖西市を暮らしやすく」ということで、公共交通の充実についてということなんですけれども、湖西市では公共交通の脆弱化が課題と認識をされていると思います。市長は、デマンド型の交通の拡充を掲げておられますけれども、先ほど来、具体的な施策についてはお聞きをしたんですけども、ただデマンドっていうのはやはりデマンドができるかっていうと、乗り合いで行うからコストダウンが図れるのかなというふうに認識をしているんですけども、実際に今、湖西市でデマンドタクシー、乗車率、乗り合い率というのは非常に少ないっていうふうにも聞いておるところなんですけれども、そういった課題をどうやってクリアしていくのかなというのが私の課題だとは思いますが、その辺り課題も含めて市長の現段階での御認識を伺えればと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 楠議員の御質問にお答えをいたします。

先ほど御質問いただいて、先ほどほかの議員の先生に御質問いただいてお答えしたことはちょっと割愛をさせていただきます。

楠議員が今御質問いただいたことにお答えをするなら、やはりおっしゃるとおり乗り合いだからコストが下がるというところが大事だと思いますが、議員がおっしゃるとおり今コーちゃんタクシーの実働の定員って、下の小数点以下は忘れてしまいましたけども1. 幾つだったと思うんです。ほぼほぼ1人に近いというような状況だと思います。だから、この数を増やしていく、それから2にしたり3にしたりっていうことがコストが下がることとイコールになると思います。ただ私、前任の影山市長をはじめ今の市の職員さん、一生懸命やっていたので高く評価をしています。ただ、コーちゃんタクシーの知名度というものがまだ低いんです。実は私、先日、同級生10人ぐらいと御飯を食べに行ったときにこの話になりまして、コーちゃんタクシー知って

る人って言ったら一人もいなかったんですよ。具体的に、市民の方々にどのぐらいの認知度ありますかというデータもぜひ欲しいところですけども、せっかくなにかいいことをやっていращやるので、いわゆる広報、PRっていうところが私は大きな課題かなと思っております。だから、とてもすばらしいものをつくった上で、それプラスやはり広報、PRをしていかないと利用者の向上というのは図れませんので、そこが課題かなと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） 具体的な進め方についてはこれからだというふうに思いますけれども、公約として掲げていращやるので、公民連携っていうふうなこともおっしゃっていただいていたんですけど、これは改めて今の公共交通の会議の延長やっていくのか、また新しくプロジェクトを起こしてやっていくのか、その進め方だけ伺ってこの項は終わりたいと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

公共交通会議に関しましては、当然重きを置いて大切にしながらやっていきたいと思っております。

あと、民間との関わり方も当然交通事業者という意味では、今お世話になっている例えば遠鉄タクシー株式会社さん、浜松バス株式会社さんも大切にしながら、もちろん状況によって他者さんのお力も借りる状況になってくるかもしれませんが、そういった意味では今でも民間事業者さんも大切にしながら進めていきたいと思っております。

先ほどもちょっと答弁をさせていただきましたが、その中の民間でやはり力をいただくとすると、AIを使ったりいわゆる運行整理であるとか、あとは例えばスマホで予約するときもシステムが欲しいので、そのシステムが提供できる民間事業者さんですとか、あとは電話での問合せも今相当なところまで大分AIのできるふうに伺っておりますので、そういったこの事業者さんとか、違う切り口での新たな民間事業者との協力というのはこれから必要になってくると思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） ちょっと聞き方が悪かったと思うんですけど、公共交通会議の中で新しい分野もちょっと取り入れながら、拡充をしていくよということだったんですけど、今市長の御答弁の中でスマホを使ったりだとかっていうようなことがあったんですけども、Ma a Sの事業を振り返ってみますと、当初スマホで予約をしようって言ってたのが、今は予約なしでやりましょうとかっていうふうに、なかなかそういったメディアを使った運用というのが難しいっていうようなところもちょっと踏まえて、今後進めていっていただけたらな、市民が使いやすいシステムを構築してほしいなというふうに思いますので、よろしくお願いします。

それでは。

○議長（馬場 衛） 3番目ね、どうぞ。

○12番（楠 浩幸） 3つ目に入ります。3つ目は、「湖西市を元気にする」ということで、産業の振興について伺いたいと思います。

市長は、産業振興について製造業を基盤としつつも農業、水産業や観光、スモールビジネスの支援について、多様な産業を今育成をしていくよというふうに言っておられますけれども、私のほうからはちょっと言いにくいんですけども、製造業に依存したようなリスクを認識をされているのかなというふうにも推測をするわけなんですけれども、これをどのように捉まえて、多角化をどのように進めていくっていうふうにお考えなのでしょうかということなんです。

新産業分野の育成に向けた具体的な支援策や、ここがちょっとポイントなんですけど優先する取組について、そこを重点にお伺いできればなというふうに思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 楠議員にお答えをいたします。

今楠議員がおっしゃっていただいたように、製造業というのが私は湖西市の産業の主軸だと思っております。これからも、行政として支援できることは目いっぱいしていきたいと思っております。

その中の産業なんですけども、製造業が結構突出をしていますけども、やはりもう一本柱を立てることが私は必要だと思っています。そのもう一本の柱というのは、観光産業を中心とした商業・農業・漁業で、一次産業のところも私は大切だと思います。ただ、観光産業に含まれるんですよね、農業・漁業のところも。私は、そこにおいてはとても湖西市というところはポテンシャルがあると思っています。

また、優先する取組としては、もちろん先ほど申し上げたように観光のところは最優先なんですけども、プラスアルファ県と連携したスタートアップ企業の誘致やファッション、デザイン分野での企業誘致を進めていきたいと考えております。

スタートアップ企業の誘致に関しましては、鈴木康友県知事に代わりまして、県の施策もがらっとこれから変わってくると思っています。

先日、新聞にも載っておりましたが、鈴木康友県知事は浜松市長時代にやっていたファンドサポート事業という事業がございます。スタートアップに対してベンチャーキャピタル、いわゆる出資するところなんです。ベンチャーキャピタルが例えば4,000万円出したら同じ金額を行政が出しますと、全国的に見てもセンセーショナルな取組をしていたんですけども、あれを県下に展開するということですので、湖西市としてやはりこのスタートアップ企業の誘致というのはとてもしやすくなるかなと考えております。ただ、じゃあどのように誘致するかということに関しましては、意外とここは私はアナログなことをやらなければいけないなと思っていて、やはり湖西市にゆかりのある例えば湖西市の出身者ですとか、そういったパイプを使って、アナログに活動して一本釣りでも誘致をするということが私は大事かなと思っています。ちょっとここでは具体的な名前は申し上げませんが、実は湖西市出身でスタートアップ企業を起こして、上場まで持っていったらっしゃる方というのはいらっしゃいます。そういったパイプを使って、お力を借りながら誘致というのも取り組んでまいりたいと思っています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） やはり、製造業一本足打法ではなかなか難しい時代に入ってきているのかなというふうには、自動車産業に従事する私も身をもって感じているところでございますので、もう一本軸を持ちたいというふうに思われてる市長をぜひ応援していきたいなというふうに思っております。

ただ、スタートアップの部分、具体的な施策をお持ちのようですけども、やっぱりカリスマ性のあるようなリーダーシップが取れるような人が来ていただけると、周りに自然と集まってくるみたいですね。私の友達も名古屋市でスタートアップやってますけれども、やはりその一つの拠点にどんどん仲間が吸い寄せられるように集まってくるということで、期待をしていきたいというふうに思っておりますし、そういった企業主体ですとかっていう思いを育むような、次の質問にもつながるんですけども、やっぱり子育てですとか教育の充実が必要なのかなというふうに思っておりますので、4番目の質問に入りたいと思います。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○12番（楠 浩幸） 「学びと子育ての環境を整える」ということなんです。

市長は、個別最適な教育を先ほど来お話をいただいておりますけれども、具体的にはAIを使ってというようなことなんですけども、これで本当に教員の負担が軽減できるのかというようなところも、その両立をどういうふうに進めていこうというふうに思って、実際に現場ではそのサポート、DXのサポートがなかなか脆弱までは言わないですけども苦勞されているというような話も現場から聞いていますし、さらにまた「ON」かっていうようなことも予測ができるわけなんです。導入に向けたスケジュール感のようなものですとか、今申し上げた私も課題を申し上げたんですけども、市長がお考えになっている課題についても伺いできたらなと思います。よろしくお願いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 楠議員にお答えをいたします。

先ほど来申し上げましたが、私といたしましてはAIが最適な問題を出題するアダプティブラーニン

グ教材の活用を進めていきたいと考えています。

あわせて、こうした教材を活用することで教員が児童生徒一人一人の課題を効率よく把握することや印刷・採点等、作業の軽減につながるものと捉え、教育施策の一環として具体的な施策に反映するよう、教育委員会に提案していきたいと考えています。

ただ、先ほど佐原議員の御質問にもありましており、やはり適してる教科というのが必ずあると思います。算数・数学などは適していますし、やはり先ほど佐原議員がおっしゃったように国語なんていうものはどうやってやるんだろうということで、私の観点でもちょっと難しいのかなと思っておるところでございます。そこは、しっかり取捨選択しながらやっていきたいと考えております。

今後は、現在導入している教材の活用状況や学習効果について、教育委員会における検討状況を注視しつつ、総合教育会議の場を活用して意見交換を図り、教育長や教育委員の皆様の御意見を尊重しながら進めてまいりたいと考えております。

具体的な時期につきましては、今のところの予定では、令和8年度がタブレット端末の更新時期を迎えますので、これを目安に検討を進めたいと考えております。ですので、令和7年度に関しましては調査研究、こういったものから取り組んでいくのかというところに重きを置くことになると思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） スケジュール的には再来年度というふうに確認をできました。しっかりと来年度、令和7年度におきましては現状把握にしっかりと、令和8年度更新ですと令和7年度で準備が完了ということなんですか、そこだけちょっと確認をしたいんですけど、どうですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

令和8年度がタブレットの更新というのが、楠議員には釈迦に説法かもしれませんが、なかなか令和8年度からやりますといってもいろいろ機器の入札ですとか、あとは結構機器がやっぱりうまく納入で

きなかったりしますので、あくまでも令和8年度が今のところタブレットの更新時期を予定しておりますので、ですので答弁の内容としてはタブレット更新するときと同時に、そのソフトを入れて御提供できるといいなということですので、ちょっと時期に関してはやはりまだ、前倒しになることはないですけども後ろ倒しになる可能性があるというふうに認識をしております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） 来年度の予算はまた3月の議会で行われると思いますので、スケジュール感についてはこのぐらいにしておきたいと思いますが、やはりしっかりと現場の声を聞いていただいて、よかれと思ったことが負荷になっちゃったというようなことにならないように、また現場の教員の先生方もそうなんですけども、子供たちが将来を担う子供たちが先ほども申し上げましたですけども、湖西市で頑張って起業しようとか、モノづくりにチャレンジしようとかっていうような子供に育っていくように、個別最適っていう言葉は最近よく聞くんですけども期待をしたいと思います。

それでは最後の質問に入りたいと思います。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○12番（楠 浩幸） 最後は湖西市長、田内市長のリーダーシップについてお伺いをしたいわけなんですけれども、市長が掲げておられる、そしやくをしますと果敢に挑戦、恐れを知らずに障子を開けてみよと言われましたよね。それを具体的にどのような形で示そうとされているのか。特に、優先すべき挑戦の一步、何から取り組んでいくんだよということをもし伺えれば、そして市長は何を市民にお約束していただけますかということを最後に伺いたいと思います。お願いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 楠議員にお答えをいたします。

具体的には、湖西市の特性や課題を踏まえ、未来志向で実行力のある、まずこの3つの施策というものを進めたいと考えております。

ちょっと重複するところもあるかもしれませんが、

まず1つ目は先ほども申し上げましたようににぎわいの創出で、2つ目が交流の拡大です。これは観光振興ということになりますけども、3つ目が住み続けたいまちづくりということで、これは先ほど来申し上げますように子育て支援の充実や災害に強いまちづくり、地域医療や公共交通の拡充に重点を置き、安心して暮らせる環境を構築するということに優先的に取り組んでいきたいと考えているところでございます。

やはり、先日、職員の皆様の前でもお伝えをさせていただいたんですけども、走りながら考えるっていう分野、判断間違えたら命がなくなるところは当然慎重にやらなければいけないんですけども、例えば経済振興ですとか交通ですとか、そういったところに関しましてはまずはやってみる、ちょっと民間的な考え方だと思うんですけども、そこが私はとても大事だと思っております。やってみて駄目ならすぐ引き返してまた違う策を考えてまたやる、この繰り返しだと思うんです。楠議員がいらっしゃる製造業ではPDCAというものが出てまいりますけども、それでも製造業の分野でもOODAといって、繰り返しになりますけども、走りながらやってみてという考え方がとても今重要視されておりますので、そういう考え方に基づいて挑戦をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 楠議員。

○12番（楠 浩幸） 私も同感なんです。やっぱり民間の出身ということで、トライアンドエラーを繰り返しながら実を取っていくという考え方にはすごく共感ができますね。どうも行政の方々、失敗をしたらどうするんだというところが、まず先に立ってしまうのかなというふうにこれまで感じていたところですけども、失敗したらごめんなさいと、後戻りすればまたやり直せばいいのかなっていうようなところも。ただ、命に関わるような部分ですとか、致命的なところについてはしっかりと慎重にやっていただきたいとは思いますが、今言っていたようなにぎわいですとか交流ですとかっていうような部分については、どんどんとトライをして

いていただきたいなというふうに思いますので、共に頑張りましょうということで私の一般質問は終わります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 以上で、12番 楠 浩幸議員の一般質問を終わります。

午後の開会から1時間を経過しますので、ここで暫時休憩とさせていただきます。再開を14時15分、14時15分とさせていただきます。

午後1時59分 休憩

午後2時15分 再開

○議長（馬場 衛） 休憩を解いて会議を再開させていただきます。

引き続き一般質問を続けます。

次に、17番 神谷里枝議員の発言を許します。

〔17番 神谷里枝登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは17番 神谷里枝議員、どうぞ。

○17番（神谷里枝） 17番 神谷里枝。通告に従いまして、市長の所信表明について一般質問を行います。

質問しようとする背景や経緯であります。12月20日に市長が初めて市政に関する考え方を明らかにされました。県議会議員と市議会議員という立場ではありましたが、市政に関してコミュニケーションを図る機会にはあまり恵まれませんでしたので、この機会に新市長の市政に対する思いや決意、湖西市のまちづくりについてのお考えをお伺いしたいと思います。

目的であります。新市長をお迎えして最初の議会であり、今後4年間のかじ取りをどのように行い目指すまちづくりを進めるのか、表明された内容についての方針や具体策をお伺いします。

質問事項1。

これまでの市政の優れた取組を継承するとのことですが、どのような取組を継承するのか内容をお伺いします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたし

ます。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 私は、所信表明でもお伝えしましたが、歴代市長の志をしっかり受け継ぎ、これまでの市政の優れた取組を継承すると申し上げてまいりました。これは、歴代の市長が新しい取組だけではなく、以前からの取組をその時々に合わせて修正・更新してきたことにより今日の湖西市があるとの考えからです。

直近の影山市長の取組におかれましては、人口減少課題に対し、子育て施策やスマートメーターの導入をはじめとするD X推進などに関しまして、大きく方向づけをされたと認識しております。また、これに限らず、ほかにも市民の皆様にとって重要な施策や地域の発展に貢献する取組は多数あります。例えばごみ処理施設の再稼働なんかも私は影山市長の大きな功績だと思っております。こうした取組をしっかりと継続し、さらに進化させていくことが私の責任であり、市政運営において不可欠な要素だと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 御答弁ありがとうございます。何かうまくつかみ切れませんでした。

一応答弁いただいたものですからちょっとお聞きしたいんですけども、影山市長のD X推進関係、職住近接をスローガンにいろいろな施策を打って取り組んでこられました。子供たちが住み続けたいと思えるまちにしたいという強い思いを持って、これまで静岡県議会議員としての14年間、市の発展に尽くしてこられたとのことですが、14年間と申しますと三上市長から影山市長に当たると思いますが、今影山市長のことは分かりました。三上市長のときのことに関しては、何か印象に残ってることはありますか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 三上議員は今日お休みになられてるということでございますけども、私がやっぱり三上市長と一緒に仕事をした中で記憶にあるのが、やはりバッテリーロードだと思います。当初、私が

県議会議員に当選をさせていただいたときは、完全に止まっている状況でございました。そのときに三上市長はあの道路を通すために、そのときに都市整備部長だった片山部長に、基本、全権限とまでは言いませんが、相当な権限をお渡しして進めるということで、私はそのときまだ1期生でございましたので、正直、県議会議員としてどのように動いたらいいか全く分からないような状況でございましたけども、そのときの片山部長に御指導をいただいて、県議会議員として役割を果たしたつもりです。そのときの三上市長の功績として大きかったのは、自分の得意でないところに関して、部下に対して思うようにやれということでお渡しをしたおかげでバッテリーロードが着手ができたというのは、私は一番の三上市長の私の中での功績だと思っております。当初は、まず都市計画の変更をしなければいけませんでしたので、そこはとても難儀をいたしました。そこに関しまして、リーダーシップを図られていたのかなと認識しております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 前々市長のところでは、バッテリーロードのことが田内市長は印象に残っているということでございました。

ちょっと話がそれたら申し訳ないんですけども、三上市長のときに昨日の懇談会の席上でも代表者の方の御挨拶の中にありましたけども、それこそ行政合併の失敗を繰り返さないために、今商工会の合併を慎重に進めているっていうような御発言がございました。それと、あとは白須賀とか北部地域の何でもっと人口増を図れなかったのかっていうような、もしまだ市長が見えない間でしたら申し訳ないですけど、そういった御挨拶があったことは間違いありません。ですので、そういった発言を聞いて私はこの市政の優れた取組っていうのが、その時点で私たちも議決はしてきましたけども、執行権を持ってるのは市長ですので、取り立てて反対ということもなかったわけなんですけども、やはりそこら辺で合併しても十何年たってもいまだもって、そういったそれなりの立場におありになる方がそういう発言をあ

る程度大きな場所でされたものですから、本当に湖西市の優れた取組、今までやってきたことが本当に湖西市民にとっていいのか、ふと疑問にも感じてしまい、急な発言で申し訳ないんですけども、そういうふうに感じている市民もいるということにおいては、やはり田内市長は独自性を打ち出し、DX推進関係ですか主に力を入れていきたいような御発言でしたけども、それはそれでよく人の意見を聞きながらやっていくということで承知をしましたので、この質問は終わります。

○議長（馬場 衛） よろしいですか、ちょっと所信表明からずれて、答弁はないと思いますんで。

○17番（神谷里枝） 答弁は結構です。

2番目の「命を守る」です。これも従来、何人かの議員がずっとやってきております。地震・津波対策について、やはり実態に即した避難訓練の実施や避難場所の設置運営といろいろありました。そういった中で、湖西市も県と連携した地域防災計画策定や防災訓練を実施してまいりました。新居地域には命山や避難タワーの設置など、早急にやらなければいけないこと、できることへの対応や対策、広域受援計画の策定も行いました。そういった中で、いろいろ御答弁がございましたけども、市の地域防災計画というのは県が地域防災計画を示して、1年だからずれた格好になるんですけども、それに基づいて湖西市もいろいろな避難訓練にしろ防災対策等を進めてきておりますけども、県議会議員として在籍された間に、そういった中で特に湖西市がここは力を入れなきゃいけないってお感じになった点などはございますか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

私、県議会議員といいまして一人区の県議会議員でしたので、ここは湖西市さん力を入れなければいけないねというところは、その都度そのときの首長にはお伝えをしてきたつもりです。三上市長のときには三上市長にお伝えをさせていただいて、影山市長のときには影山市長にはお伝えをさせていただきましたので、思ってた行動しなかったということはないです。ちょっと防災とはズレますが特にコロ

ナ対応におかれましては、影山市長とはほぼ毎日電話でやり取りをさせていただきましたので、そのぐらいのしっかりと連携は取らせていただいていたのかなという認識でございます。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。先ほどの同僚議員の課題をどのようにというところでは、避難訓練レベルの平準化っておっしゃったと思いますが、今担当部署のほうでも恐らく地区防災計画とか、地域に合った計画とか、先ほど御答弁にもございましたように避難するときの自分のどの経路をたどっていくとか、そういったスマホアプリに落としして何かやるというようなこともやっているということは承知しておりますので、なかなかレベルの平準化ってやっぱり難しいですね、自分が住んでいるところだと、クックマートの近くって恐らく津波は来ないだろうと、だからそのときの訓練はすごい簡単ですし、先日の訓練はやはり鷺津中学校が指定避難所になっていますので、それに向けた訓練は行われましたけども、そこで感じたのはやはり自主防災組織の方の人材育成ですね、人が交代していくのでぐんとレベルが落ちたりとか、うまく継承できていないっていうのが大きな課題かなというのも思いました。

いろいろ御答弁を伺っていましたが、鷺津中学校でも避難できる世帯、テントを張れるのが150未満なんです。避難できる人数というのが150人ぐらいしか避難できないんです。そこで、今ちょっと所信表明を見ると、えてして公助のほうに力を入れているような感じに受け取れたんですけども、やはり最近の担当課の方針と自分も考えますのは自助、その次に共助ということになっていくと思うんですけども、その辺で自助の部分についてもう少し力を入れていくっていうことが私は必要ではないかと思っていますんですけども、いかがでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

自助のところに関してでは、防災という切り口で自助を行政から促すというのも大切なんですけども、

私はそれと同じぐらい大事なのが、やはり日頃からのコミュニティの醸成というものがとても大事だと思っております。私も鷺津出身でして、鷺津のお祭りは、お祭りがそもそも好きなものですから毎回欠かさず出ますけども、やはりそういったところでしたらしっかりと顔を合わせる、たとえ話したことがなかったとしてもあの方は見たことがあるなというだけで、私は災害時、大分違うと思っております。ですので、ちょっと切り口が違うかもしれませんが、やはり防災の自助を促すと同時に日頃のコミュニティの醸成、お祭りを応援する等も含めて、そういったコミュニティづくりの醸成に関して行政が応援していくということが私はとても大事だと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） そこが、地域のコミュニティというのが御近所の助け合いっていう表現になっていくかなと思っております。

ありがとうございます。そういった中で、自助というところにつながってしまうんですけども、県において地震・津波対策等減災交付金っていうのが令和5年から7年までの3年間で、75億円規模で70を超えるメニューがあり、積極的な活用をしていただきたって常々思っているんですけども、それこそ申し訳ないです。県議時代にこれは湖西市も積極的にこの70ぐらいある地震・津波対策等減災交付金のメニューの中で、湖西市もこれは積極的に導入したらいいんじゃないかっていうようなメニューってございましたか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

地震・津波対策等減災交付金に関しましては、大分メニューというのが広いんです。例えば避難タワー造るときも使いますし、例えば命山の上の防災倉庫とかにも大分使いますので、私も県議に先ほど申し上げたように当選させていただいたのが東日本大震災の直後でございましたので、この交付金をどうやってどういうメニューにするかというところから知事部局の皆様と一緒に作成段階から関わってまいりましたので、当然、今の湖西市でもたくさん使っ

ていただいたという認識でございます。

まずは、そもそもただそれを使うためには湖西市の津波避難計画というのをつくり直すところから始めました。そのとき当時、三上市長でございましたけども、やはりなかなか津波避難計画をつくるには人材が不足してるというお話だったので、県からプロフェッショナルの職員を送らせていただいてその計画をつくり直して、津波避難計画をつくった上でどこに命山、避難タワーが必要だということで拠点整備をしましてまいりました。そこにもちゃんと交付金というのが投入をされていると思っておりますので、湖西市でもちゃんと活用していただいたという認識でございます。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 分かりました、ありがとうございます。

福祉避難所について先ほど来、何人かの議員が質問をさせていただいておりますが、福祉避難所というのは最初から開設されるものではないんですよ、まずは日常生活ができなくなって、避難しなければならんっていうような方が指定避難所なりなんなりに行って、そこでやはり要支援、ここでは無理ですよっていう判断をいただいた方が福祉避難所のほうに回っていく。福祉避難所は、その施設の職員ではなくて市の職員が出向して、まずそこに福祉避難所を開設するっていう段取りだと認識しているものですから、福祉避難所の場所を、今5か所あるということですけども、増やしていただけるのはいいかなと思うんですけどもみんなが勝手に行けるわけではないってそこってすごく大事なことですし、先ほど同僚議員が言っていましたように、最初から開設できるではない避難所っていうことで、備蓄品等の事前の予算づけがあるといいなっていうお話でしたけども、その辺はよく検討してやっていただければと思います。障害があるから福祉避難所に行けるとも限りませんので、まずは自助が、避難しなくて済む自分の家というのが大事かなって思っております。

市長はエアコンの設置で感染症対策、熱中症対策

っていうことを御答弁されていまして。熱中症対策では各学校の教室とかなんかには整備されて体育館はまだかもしれませんが、災害関連死等を考えると本当は私はトイレを我慢しないことがすごく大事なことってなっていますし、トイレトレーラーとかキッチンカーとかそういったもので、刈谷市か何かが1,400万円ぐらいでトイレトレーラーを設置して、能登半島地震のときにそういう法人がありまして、そこへ登録していて能登半島にも出向いて支援に当たったってということ、常には市のイベントに使ったりしているということ、これ誰しもがやはりトイレというのを我慢することが一番体調によくないって私は思っております。先日、静岡市であった研修会でもやはりトイレが一番大事かなって思いましたので、少しそちらのほうも気にしていただけるとありがたいかなと思っております。よろしくをお願いします。

2番目に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） 市立湖西病院については、経営強化プランの取組を加速させるための取組を表明されましたが、経営強化プランの取組を加速させるということは、新病院整備事業も基本構想（案）が公表され、来年度基本計画、令和12年度開院を目指す整備スケジュールも含まれております。多額の費用が見込まれる中で、どのように加速させていくのかお伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

入院及び外来患者数を増やし、収入増につなげるため医師を確保し、救急患者のファーストタッチや健診センターの利用促進を図るなど、経営を効率化することにより医業収入を確保し、安定的な収支の改善を図ってまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） この経営強化プランというのは令和5年から令和9年度の計画期間でありますけれども、加速させるということはこの期間を短縮するお考えでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

そこも踏まえて、直近に市議会の皆様にまた御説明をさせていただきたいと思います。ただ、強化プランは強化プランで大事にしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 以前、湖西市も包括病床でしたっけ、6,000万円ぐらいかけて病床の改修を行って、途中で断念した経緯もあったりします。そのときに、看護師さんたちも多くの方が計画が断念してしまったので辞められたという経緯もありますので、やはり市長が替わったから大きく方針が変わるといって、やっぱり人の心理状態ってまた不安も与えるかなと思っておりますので、その辺は慎重にさせていただきたいと思っております。

湖西市は、地方公営企業法の全部適用で平成29年からですか、病院事業管理者を配置して人事とか財務に対する権限を与えまして、病院経営に専念できるように取り組んでまいりました。

先ほど市長の御答弁の中に、浜松医科大学の学長さんと大変厚意にしているのってというような御発言がございましたけども、やはり組織として動いていけないといけないと思うんです。病院には病院事業管理者、また今は大貫先生がいらっしゃるって、随分、強化プランも促進されてきていますので、その辺の方々の立場も踏まえた上で、例えば浜松医科大学へ御相談に行くとかっていうときにはよく連携を取って、お一人で出向くとかそういうことではなく連携を取って、とにかくそれぞれの立場を尊重しながらやっていただきたいなっていうふうに強く感じておりますけども、その辺いかがですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

神谷議員のおっしゃるとおりでして、私だけで走るつもりは全くありません。そこに関しましては、院長先生、病院管理者の方々と連携をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 1月5日の新聞に、浜松市と浜松医科大学が高度な医療を継続的に提供する体制づくりに着手して、この4月に地域医療連携推進法人を設立して、医師の相互派遣や患者の医療データの共有システムなど、いずれは県西部にも入ってきたいよということですけども、やはりこういった情報をも的確につかみながら、今後加速させるのはいいんですけども周りの状況も見ながら、やってしまってからでは遅いかなと思いますので、こういった周りも同じ医療圏ですので、その医療圏の動きを把握しながら連携をうまく取って、いい公立病院になるように取り組んでいただきたいと思います。

次に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） 3番目、「湖西市を暮らしやすくする」について、これもデマンド交通の件が何回か出ておりました。湖西市はコミュニティバス（コーちゃんバス）とデマンド型の乗合タクシー（コーちゃんタクシー）ですね、あと企業シャトルB a a Sの実証実験、それから高齢者の移動確保として高齢者バス等利用料金の助成事業としてタクシーにも利用できるようになりまして、今年度から申請方式からプッシュ型に切り替えて取り組んでいるところでありますが、そういった中で先ほど来、同僚議員もおっしゃっていましたが、デマンド交通というのは予約をする必要があって、企業シャトルっていうのが、そこがみんな予約が面倒くさくて予約を見直したっていう経緯があります。高齢者が1年間に2,000円もらえるそういった利用とは、このデマンドというのは電話である程度お願いして行って、病院へ行ってついでに買物も行きたいからこっちも行きたい、それが多分今もできないって認識してるんですけども、そういうことから余計にデマンドの利用率がなかなか伸びないって私は思っておりますので、どちらがいいかは分かりませんが、高齢者の移動確保としての高齢者バス等利用料金助成、年間2,000円です。月に2,000円ではないんですね、湖西市は条件がなくなって75歳以上の方全員ということですので仕方ないかもしれませんが

も、そういったことも加味しながら湖西市の公共交通の在り方をよく考えていただきたいと思います。

同じところの②に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） 豊かな自然環境や美しい集落景観の魅力をより一層引き上げるため、湖西連峰や浜名湖、白須賀海岸の安全や利活用に取り組むとのことですが、特に利活用について何かお考えがあれば伺いしたいと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

湖西連峰や浜名湖、遠州灘といった豊かな自然環境は、本市の大きな強みであり、観光面でも大変重要な資源と考えています。

湖西連峰は、初心者でも気軽に楽しめるハイキングコースとして市外・県外の多くの方々に親しまれており、今後も登山者数を増やしていきたいと考えていますが、まずは市民にも愛される山として市内の方に多く登っていただけたらと考えております。

遠州灘や浜名湖では、釣りやサーフィンをはじめとする様々なアクティビティが楽しめますので、地元や愛好家の皆様の御意見を聞きながら、今後の整備等を検討していきたいと考えております。

また、観光活用だけではなく、環境整備にも力を入れていきたいと考えており、湖西連峰の倒木対策については森林環境基金を活用して計画的に整備を進め、安全で快適に利用できる環境を整えていきます。

これらの取組を通じて、自然を守りながら観光地としての魅力をさらに高めていきたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。

では、次に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） ここの皆さん質問されておりますけども、現時点では工業用地の供給を着実に進めつつなっていますけども、まずはバッテリーパーク周辺を着実に進めていくというってそういうふう

に思っていてよろしいですか、大沢地区もありますし。

○議長（馬場 衛） 市長いいですか、答弁をお願いします。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

工業用地に関しましては、例えばバッテリーパークに関しましては約50ヘクタールの広さでございますので、環境アセスメントに引っかからない50ヘクタール以下の工業団地の必要性というのは感じております。ただ、具体的にまた今後どこを広げていくかというのは、湖西市内の特に製造業の皆様ですね、用地を求めているらっしゃるのは製造業の皆様とあとは商工会、そしてもちろん市の職員の皆様と一緒に考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 分かりました。それから、スタートアップ事業を支援していきたいということでしたけども、当初予算で湖西市もスタートアップ事業創業支援として510万円ぐらい予算を組んでおりますけども、このスモールビジネスっていうのは小規模で始められる事業で従業員が5人以下というふうになっているんですけども、これと湖西市が今回510万円つけた事業とは全く違うという解釈でいいんでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 言葉の定義づけをまずさせていただきたいと思うんですけども、スタートアップとスモールビジネスというのは違います。まずスタートアップというのは、通常、一般的に言われているのは創業して5年以内にM&A、例えば合併する、吸収される、それによってキャッシュを得る、現金を得るということです。もしくは、いわゆるIPOと言われている株式上場、それも株式上場することなので莫大な資金を得る、通常5年以内と言われてますけどこれがまずスタートアップです。

片やスモールビジネスというのは、例えば焼き肉屋さんやりますとか、居酒屋、飲食店をやりますといったことも含めたものがスモールビジネスということですので、そこは全く違うものです。

今年度予算計上されているのがスタートアップの予算ということで計上されていますので、私が今申し上げた前者の定義づけのものの予算だったと認識をしております。ただ、来年の予算に関しましては、また今後こういった予算の取り方をやるのかということは今協議をしている最中です。予算の名前に関しても今これから検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。

では、同じところの②に移ります。浜名湖の環境改善や資源確保などに取り組むってことですが、でも、浜名湖の環境改善っておっしゃられてますけども、それこそエミナーの裏の元汽船場の跡地、市長のお膝元になりますけども、あそこも栈橋が朽ち果ててヘドロがどんどんたまってきて横から流れてくる川よりも高くなってる、そういったことも含めて浜名湖の環境改善に取り組むお考えなんですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

浜名湖の水産業というのは、本市にとって非常に重要な地域資源であり、その環境保全や水産資源の確保に取り組むことは市全体の活性化につながるものと考えております。

アサリをはじめクルマエビなど、浜名湖の水産資源は近年記録的な不漁となっており、その要因として温暖化による水温の上昇、潮流の変化、クロダイ、エイ等による食害、アマモなどの減少など複合的な問題が指摘されています。

これらの課題に対しましては、本市単独で何かするというのはなかなか難しいと認識をしておりますので、県へ強く要望して、やはり浜松市との連携というのは私これからとても大事なことだなと感じておりますし、あとはやはり浜名漁業協同組合等としっかり連携を取りながら、効果的な施策を展開してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 分かりました。

同じところの3番に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） インバウンド受入れ体制の構築、これも先ほど来出ていました。市長の答弁にもありましたように、本当にここは通過型っていいですかそういうところで、通過型ではなかなか経済活性化にはつながらないって考えております。

湖西市も浜松・浜名湖ツーリズムビューローっていうところに職員の派遣をしておりますけども、これは県と浜松市と浜松商工会議所とか地元企業が出資して、令和元年度に財団法人浜松コンベンションビューローというのを設立してやっているわけですけども、こういったところに今は職員の派遣ということですけども、もう少し観光産業とかいろいろ市長もおっしゃられていますので、もう少し積極的に関わっていくお考え等はいかがですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 神谷議員、ちょっと御確認させていただきたいんですけども、関わっていくというのは浜松・浜名湖ツーリズムビューローに関わっていくという認識でしょうか。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） やはりそこが中心になって浜名湖の観光を開発してるっていう考え、表現がいいのかちょっと分からないんですけども、環浜名湖関係でそこが観光を推進しているって認識してるもんですから、全然、湖西市とすると職員の派遣をしてちょっとは関わらせてもらってるという状況かなと私は思ってるんです。もし間違っていたら担当部長さん。

○議長（馬場 衛） 神谷議員、部長には答弁なくて、今日は所信の関係だからあまり奥まで突っ込まれると。

よろしいですか。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

浜松・浜名湖ツーリズムビューローの関わり方って、今職員も派遣をさせていただいてますし、それなりの負担金も払っています。神谷議員から見ると、人を出してお金も出してるのにいまいち湖西市に対

する貢献が少ないという認識なのかなと思っておりますが、ただ例えば現時点ですとサイクリング事業なんかに関しては、浜松・浜名湖ツーリズムビューローはとても湖西市の広報というものを一生懸命やっていたいております。ただ、逆に言うと例えばこれからやっていきたい湖西市の体験型観光ですとか湖西市の食ですとか、そういったところに関しましては逆に湖西市からいろいろと浜松・浜名湖ツーリズムビューローさんをお願いをして、広報をしていただく必要があるかなと思っておりますので、そこをしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

ちなみに、余談ですけども浜松・浜名湖ツーリズムビューローの一番トップは遠鉄時代の私の上司でございますので、物も言いやすいかなと認識しております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 分かりました、ありがとうございます。

4番目に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） 障害者の雇用促進についてのお考えをお伺いします。

先ほど御答弁がありましたけども、障害者の雇用促進と就労施設の商品開発や販路開拓の支援というのは、私はちょっと2つそれぞれのものかなという解釈してるんですけども、お考えをお伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） もう一度御確認なんですけど、聞き取れなかったんですけど商品開発ともう一つ、教えていただいてもいいですか。

○議長（馬場 衛） 神谷議員どうぞ。

○17番（神谷里枝） 販路開拓って書いてありますね。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） ありがとうございます。

まず販路開拓に関しまして、その前に失礼しました、商品開発のところから。まず、やはり事業者さんが必要なのは魅力的な商品をつくっていくことが

大事なのかなと感じております。やはり、私も県議会議員のときにいろいろ視察を、県外もさせていただいて痛感をしてしておりますのが、世の中の市場というのは、障害者の方がつくっていただいているから買ってくれるというほど甘いものではないと認識しております。ですので、クオリティが健常者の方がつくっているものと同等のものが求められるかなと思っております。ただ、ですので商品開発ということに関しては企画するところと製造のところ、その両方のクオリティが必要だなと思っておりますので、やはりそこに関しては先ほども申し上げましたようにプロの事業者さんとの連携が必要なかなと感じているところでございます。

また販路開拓、いい商品があるという前提の販路開拓でございますけども、こちらに関しましてはアナログな営業活動というものが大切だなとは思っておりますが、ただ就労支援の事業者さんとかにそれを求めるのは私は酷だなと思っております。こここそ行政の出番かなと思っておりますので、やはりいいものが生まれた場合には行政が率先して売っていく、もしくは行政で率先して使っていく、または市民の方にぜひ使ってくださいとお願いをするということとはとても大切なことだと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 商品開発や販路の開拓って、就労移行支援A型とかっていうと、そこでやってみてうまくいけば一般就労につながっていく、それが私は障害者の雇用促進かなというふうに考えております。

就労継続、浜名学園のなぎさ作業所とかほかでもいろいろやっていますけども、そこはそこなりに利用者さんの能力に応じた商品、いろいろ取り組まれているかなというふうに認識しております。

湖西市役所も、ここ数年前からきらりんっていう場所を設けまして、就労支援という表現が適切かどうか分かりませんが、一応公共職業安定所を通してなかなか一般就労に直接結びつかない方を採用していただいているんですけども、きらりんっていう市役所内における就労支援の場所について、市長はどのようにお考えですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

きらりんにつきましては、私もちょっと市長になったばかりですので詳細なところまではまだ把握をしておりませんので、これから直接お話を聞いてしっかりと認識をしていきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員、残り時間が4分となっておりますので、承知してください。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。障害者の雇用促進に関しては、市の独自支援などによる雇用促進を図るお考えかどうか伺います。市の独自支援策を講じるお考えがありますか。

○議長（馬場 衛） 少し所信表明とずれてきてるんですけど。

○17番（神谷里枝） 障害者の雇用促進ってうたっているものですから。

○議長（馬場 衛） その確認ということで。

○17番（神谷里枝） そうです。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 神谷議員、大変申し訳ありませんけど、もう一度趣旨を最初からおっしゃっていただいてもいいですか。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） 市として障害者の雇用促進に、市の独自の支援策を講じるお考えってございますかってお聞きしました。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） それは確認なんですけども、市で採用するという政策なのか、それとも市内の事業者さんをお願いをしていくものなのか、後者のほうでよろしいですか。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 市役所も含めて、市内企業への就労も含めて、国が行っている障害者雇用促進ではなくて市独自に何か手厚く考えられますかってことです。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） そこに関しましては、私も大変重要な件だと思っておりますので、また担当課と

協議して、湖西市で何ができるのかしっかり考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） 次に移ります。

遊びの場の充実ということですが、先ほど来答弁がございましたけども、市長が考えられる遊びの場の充実というのは、何歳ぐらいまでの子を対象にお考えになってますか。アメニティプラザではなくて運動公園とか文化公園もいいんですけども、やはり人を呼びこめられる遊びの場っていうふうに私はちょっと考えていただきたいなと思って、なかなか年齢が高くなった子の遊びの場が湖西市にはないのかなって感じてるもんですから伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

年齢に関してですけども、まず遊びの場の提供というのは、私の認識では小学生までというまず遊びの場の認識です。プラスアルファでやはり中高生、中高生の場合ですとただ遊び場というよりはいい方が正しくないかもしれませんが、たまり場という言葉でもいいかもしれません。私、湖西市内でもやはり中学生、高校生がお金を使わずにいい意味でたまっていられる、お友達とお話ができる、気軽にお金かけずにずっと入ってきて勉強ができたというような場所が少ないなと思っておりますので、そこはちょっと切り分けて自分の中では考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。

次に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○17番（神谷里枝） 道路に花を植える云々という御答弁が前もございましたね、そういった中で市内各学校で農業・漁業の体験学習という②にあります。がそういった中でそういった花を道路に植えるとかそういったことも例えば学校単位、鷺津小学校とかなんかで取り組んでもらえるような働きかけとかも考えていただけるといいのかな、市長が農業・漁業の体験学習の取組っておっしゃってるものですから、

そこら辺も幅を広げて御検討いただければと思うんですけどいかがでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

とてもいい御提案だと、今伺って思いましたので検討していきたいと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） では、先ほどもありましたようにアダプティブラーニングの件ですけども、市長は積極的についていか研究をしたいということですけども、これはまだ中央教育審議会のほうにやっと大臣が諮問したような段階だと私は認識しておりますけども、そこを待たずに来年度中に湖西市はアダプティブラーニングについて研究を進めていくっていう解釈でよろしいですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

実は、国でも今もう2021年の6月に学校における先端技術活用ガイドブックというものが出されていまして、ここにもうAI技術を活用した学習支援ツールの記載というものが載っておりますので、国でも大分早い段階から目をつけていただいているという認識です。また、県におきましてもふじのくに学校教育情報化推進計画というものが出ておりまして、ここでもやはりスクールDX、デジタルトランスフォーメーションを進めるという中で、この中にもそのアダプティブラーニングという認識が中に入っておりますので、県議会の場合でも大分このアダプティブラーニングについての議論というものが行われておりましたので、国も県も大分早い段階から方向性を出していると認識をしています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） どこの部署に仕事をさせるつもりですか、湖西市の中で、研究していくといった場合。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） こちらに関しましては、市の教育委員会の学校教育課のお力が必要だと思ってお

ります。ですので、やはり教育の一番の権限をお持ちなのは教育長ですので、先ほどの御答弁でありましたとおり、総合教育会議の場でこういったものはどうですかということで私は提案をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 神谷議員。

○17番（神谷里枝） ありがとうございます。駆け足になってしまいましたが終わります。

最後に、県議会議員として培った人脈を生かして、市民が。

○議長（馬場 衛） 神谷議員、発言時間が終了していますので。

○17番（神谷里枝） じゃあいいです。とにかく果敢に攻めるということですけども、よく職員とも相談してやっていただきたいと思います。ごめんなさい、ありがとうございます。

○議長（馬場 衛） 以上で、17番 神谷里枝議員の一般質問を終わります。

次に、15番 荻野利明議員の発言を許します。

〔15番 荻野利明登壇〕

○議長（馬場 衛） 15番 荻野利明議員、どうぞ。

○15番（荻野利明） 15番 荻野利明です。私のほうは簡単に終わりたいと思いますので、よろしくお願いをいたします。

質問しようとする背景や経緯。田内新市長の初めての所信表明に当たり、今後の湖西市をどう導いていくのか。物価高騰で苦しむ市民の暮らしをどう支えていくのかを伺いたいと思います。

質問の目的。新市長の市政に対する基本的な考え、どう取り組んでいくのかを知りたい。

質問事項①、「命を守る」として地震・津波対策を掲げていますが、ハード面についてどのように考えているのか。命山とかそういったものは終わったというふうに考えているのか、それと津波の防潮堤、そういったものをどうしていくのかということを伺いたいと思います。

また、避難訓練等も非常にマンネリ化しています。これは湖西市だけじゃないと思いますけども、マン

ネリ化していますが、このようなマンネリ化に対して避難訓練どう考えているか、どう変えていったらいいと考えているのか、具体的じゃなくてもいいですから分かる範囲でお願いします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

先ほどの御答弁と重複をしてしまいますが、地震・津波対策に対するハード面については、私は防潮堤整備の方向性を令和7年度中に結論を出すことを目指し、協議会で進められている検討を踏まえて最終的な結論を導き出していきたいと考えています。

先ほど命山、避難タワー等、整備が終わっているかという御質問もいただきましたが、これは私も県議会議員として市として一緒に協調してやってまいりましたので、現時点ではそういった命山、避難タワーの整備は一通り整備が済んでいると認識しております。

避難訓練につきましては、沿岸地域の住民を対象に、スマートフォンを活用した自宅から最寄りの避難施設までの避難訓練を行い、避難時間や避難速度などのデータを収集・分析し、避難に関する課題を洗い出すことで逃げ遅れのない体制を構築するなど、実態に即した訓練ができるよう、地域と一体となって取り組んでいきたいと考えております。

先ほどマンネリ化をどうするかということもありましたが、答弁重複しますけどもやはり先進事例の情報というものを改めて地域に提供させていただく必要があるのかなと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 荻野議員。

○15番（荻野利明） 分かりました、ありがとうございます。今後まだまだ先がありますので、何度も一般質問できますので、そういうところでお話を聞かせていただきたいと思います。

もう一つ新市長にお伺いしたいんですけども、県議会議員14年ということなんですけども、質問にないことなんですけど分かることだけ。

この間、能登半島地震の関係でたしか珠洲市の危

機管理監だと思うんですけど、その人がこんな大きな地震が来たら一地域だけで対応なんかできないと、じゃあこれからは県のほうで広域的な形で対応できるようにして欲しいという話をされていたんですね。確かに道路が寸断され、火事は起きる、津波は来るからとてもじゃない、対応できないと思うんですね。その点で、静岡県というのはこうした地震のとき何をやってくれるんですか、その辺ちょっと質問してませんか。

○議長（馬場 衛） 所信表明とずれ過ぎちゃってるんですけど、今は県議会の立場じゃないもんで。過去の例の範囲でということで、そこだけ御承知おきください。市長、お願いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。やはり一番県がする役割で大きいのが、自衛隊の派遣要請だと思っております。なので、そこはやはり県を通さないといけませんので、そこが一番大きいかなと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 荻野議員、よろしいですか。

○15番（荻野利明） 分かりました、ありがとうございます。やはり、市から自衛隊に來いって言っても来てくれないので、分かりました。

次に2点目。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○15番（荻野利明） 空き家対策についてはもう聞きましたのでパスします。

③、「湖西市を元気にする」と言ってるわけですが、私は今までのように大企業ばかりを応援する市政ではなく、中小業者をもっと応援する必要があると考えています。そうすることで、市内に活気が出て元気な湖西市になると思います。中小・小規模企業に対する支援について、どう考えているのかを伺いたいと思います。

例えば大きな工場を誘致しても、そこに働きにくる人は浜松市とか豊橋市、市内よりもそうした人は給料を全部うちのほうへ持って行ってうちのほうで使うわけですね、湖西市にはあまり落ちないと。そういったことがありますので、やっぱり中小企業

で働く人というのは湖西市民が多いわけですよ。そういう人たちに給料を払って湖西市内でお金を使ってもら、そういうことのほうが私は市内の活気というのは出てくると思うんです。ぜひ、その辺で市長のお考えを伺いたいと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

中小企業や小規模事業者は、地域経済の基盤を支える重要な存在であり、その振興が市全体の活性化につながるものと考えております。思いは荻野議員と同じでして、当然大規模事業者、大企業も大切なんですけども、それと同じかそれ以上に中小企業さん、小規模事業者さんというのは市の支援というのは必要だと考えております。大企業も中小企業に支えていただいているというのが実態でありますので、支援というのは全力でやっていきたいなと考えております。

具体的には、商工会などの専門機関と連携し、経営相談をはじめとした中小企業や小規模事業者が抱える課題への対応を進めるとともに、展示会への出展補助やDX化に係る経費の補助など、実効性のある支援に取り組んでまいります。

中小企業や小規模事業者が元気になれば、市全体の経済が活性化し、結果として元気な湖西市の実現に大きく寄与すると考えております。特に、小規模事業者のところでございますけども、先ほどの質問でも多く出てました飲食店をしっかりと応援していくということが、まちのにぎわいにもつながっていくと思いますので、また関係機関の皆様と力を合わせて引き続き取組を進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 荻野議員。

○15番（荻野利明） 答弁ありがとうございます。私も大きな会社を誘致するなど言ってるわけではありませので、今の答弁これからも忘れずにお願いをしたいと思います。

以上のことを述べて、私の一般質問を終わります。ありがとうございます。

○議長（馬場 衛） 以上で、15番 荻野利明議員の一般質問を終わります。

再開から1時間を超えておりますので、ここで暫時休憩とさせていただきます。再開は15時30分、15時30分とさせていただきます。

午後3時16分 休憩

午後3時30分 再開

○議長（馬場 衛） 休憩を解いて会議を再開いたします。

引き続き一般質問を続けます。

次に、2番 山本晃子議員の発言を許します。

〔2番 山本晃子登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは2番 山本晃子議員、どうぞ。

○2番（山本晃子） 2番 山本晃子です。通告に従いまして質問をさせていただきます。

質問の背景や経緯、目的に関しましては、市長の所信表明を拝聴いたしまして新市長への期待を込めて、そしてお考えを確認させていただきたいという思いから質問させていただきます。

質問事項1です。質問事項1の避難所のエアコン設置につきましては、先ほどの先輩議員への御答弁で確認いたしましたので、取り下げさせていただきます。

では、質問の2に入らせていただきます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○2番（山本晃子） 2の「湖西を暮らしやすく」に関してですが、湖西市の将来をお考えになられた際にモデルとする市町があるのでしょうか。また、市民の皆様に文化芸術を一層楽しんでいただける環境づくりを進めてまいりますとのことですが、環境整備についてハード面での施策をお考えでしょうか。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

現時点では、具体的にモデルとする市町は定めておりませんが、個々の取組においては先進市町の事例を参考とすることや比較することを通じて、湖西市にとって最も適した施策を実行するよう心がけて

いきたいと考えております。

具体的な市町ということではないんですけども、ニュージーランドにクイーンズタウンという町がございまして、人口規模は4万人ほどの町なんですけども、私が理想とする自治体はそこが一番イメージとしては近いので、ちょっとお答えさせていただきたいと思います。

静岡県が進めるアーツカンシルしずおかや静岡県舞台芸術センター（SPAC）は、文化・芸術活動を進める上で大きな力になると認識しておりますので、今後も市内全域で活用が広がるよう制度の周知を図っていききたいと考えています。

ハード面については、市全体の公共施設の優先順位を考慮した上で、市民の声を伺いながら考えてまいります。当面は、リニューアルした新居地域センターやれんが館など、今ある地域資源の中でアーツカンシルやSPACなどを活用して、魅力的な文化活動に出会う機会を創出していきたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 山本議員。

○2番（山本晃子） 御答弁ありがとうございます。ニュージーランドのクイーンズランドが出てくるとはちょっと意外でしたので、非常に私のほうも大変興味深くちょっと調べてみたいなと思っております。

そして、先進事例を活用していただくということやアーツカンシルしずおか、SPACを最大限に活用して周知していただけるということに非常に期待しておりますし、市民の皆様が芸術に触れる機会が多くなるということを大変期待しております。

今、新居地域センターのお話も出たかと思うんですけども、昨年のリニューアルに関しまして、ピアニストの鐵 百合奈さんのリサイタルが行われました。私もそこにお邪魔させていただきまして、市が所有しております高級ピアノが久しぶりに披露されまして、充実したよい時間を過ごせたなということを非常にありがたく思っています。

子供たちに長年空手を教えられている市長には釈迦に説法だとは思いますが、特に小さい頃に本物に触れる機会があるということは、その後の

子供たちの成長に大きな影響を受けることと思います。

そのリサイクルで感じたことなんですけれども、例えばなんですけれども、環境づくりの一環としまして子供たちを含めて希望する市民に、皆さんが素晴らしいピアノを演奏する機会などを設けていただけたら、環境づくりの一つとして素晴らしい取組になるのではないのかなと思っておりますので、ぜひそういったこともお考えいただければと思います。これは市民でプロの演奏家の方からもお声をいただいているので、ぜひ御検討いただければと思います。よろしくお願いします。

では、続きまして3番に移らせてください。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○2番（山本晃子） 4の「学びと子育ての環境を整える」に関してですが、教育DXに関してどのような施策をお考えかという件につきましては、先輩議員への御答弁で理解いたしました。それを踏まえまして再質問の形で質問させていただきたいと思っております。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○2番（山本晃子） IT先進国のスウェーデンでは、2006年に学習用端末の1人1台配備が始まり、教科書を含めたデジタル化が進みました。しかしながら、子供たちの集中力が続かない、考えが深まらない、長文の読み書きができないなどの弊害が出ているそうです。実際に、2022年の国際学習到達度調査では、読解力と数学的应用力、科学的应用力が前回の調査から順位を下げたということで、紙の教科書への見直しが進んでいます。また、スウェーデン最大の研究教育機関であり、医学系単科大学としては世界最大の規模を誇るカロリンスカ研究所は、印刷された教科書や教師の専門知識を通じた知識の修得に再び重点を置くべきだと訴えていると、2024年10月22日、読売新聞の一面記事に掲載されました。このことに関して、市長は先ほど教科によるなどということで触れられてはおりましたが、どのような考えをお持ちなのかお聞かせいただけますでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

今の山本議員のお話は、とても興味深く拝聴いたしました。紙のほう教育効果が出てくるかもしれないということだと思います。そこに関しては、私もしっかりと職員さん、あとは市の教育委員会と一緒に深く研究をしてみたいと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 山本議員。

○2番（山本晃子） ありがとうございます。調査研究していただけるということ、大変ありがたく思っております。

また、保護者の方からなんですけれども、タブレットによる学習はタッチペンを使用するために、鉛筆の持ち方が悪くなったりですとか筆圧が弱くなる、汚い字でも反応してしまうために丁寧に書く習慣が身につかない、目が悪くなるなどの心配の声をいただいています。そして、何を子供がやっているのかが分からずに不安という声も聞いております。また、海外では心理的・社会的に悪影響、依存性・中毒性が見られるとの指摘もあります。デジタルの活用は重要だと私も非常に思っておりますし、避けては通れないことは承知しておりますが、ただこれらのことも踏まえてぜひ今後お考えいただいて、今おっしゃったように調査研究をしていただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。

以上をもちまして、私の質問を終わらせていただきます。

○議長（馬場 衛） よろしいですか。

○2番（山本晃子） はい、ありがとうございます。

○議長（馬場 衛） 以上で、2番 山本晃子議員の一般質問を終わります。

次に、3番 寺田 悟議員の発言を許します。

〔3番 寺田 悟登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは3番 寺田 悟議員、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 3番 寺田 悟です。皆様、

本年もよろしくお願いいたします。

主題、所信表明について。

質問しようとする背景や経緯。田内新市長が所信表明に掲げる4つの柱、1「命を守る」、2「湖西市を暮らしやすくする」、3「湖西市を元気にする」、4「学びと子育ての環境を整える」について、現在湖西市が抱えている問題と新市長の問題解決の取組を確認させていただきます。

質問の目的。新市長が考える湖西市の未来像と施策方針を明らかにさせていただきたいということです。

質問事項に入りますが、質問事項に入る前に、昨年元旦に発生した能登半島地震及び9月の同地方を襲った豪雨災害により、お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈り申し上げますとともに、今も避難生活を強いられている多くの北陸地方の皆様に、心よりお見舞いを申し上げます。また、一日も早い復興を深くお祈りいたしております。

さて、私の質問ですが、これまでの先輩議員、同僚議員の皆様の質問により市長のお考え、明らかとなったものもありますので、私からは要所要所で確認させていただくという点で質問させていただきます。

まず「命を守る」について、地震・津波対策についてなんですが、避難所対策では国や県が国際基準であるスフィア基準、またTKB48、トイレ・キッチン・ベッドの48時間の配備など推進を表明しています。昨年元旦に発生した能登半島地震においては、直接死よりも災害関連死が多く、避難所生活でのストレスが原因とも言われています。ストレスを軽減し、災害関連死をなくすような施設の環境整備、心身の健康管理、サポート体制の充実など、被災者目線での避難所対策を早急に進めていただくためには、市長には全ての避難所に足を運んでいただき、その目で現場をしっかりと見ていただき、しっかりと実情を把握していただきたいと思います。

先ほど来、エアコンの設置について御答弁ありましたけども、エアコンの設置だけではなくてトイレだとか隙間風など、何がこの避難所には足りていないのか、何が必要なのか、そういったところをしっ

かり改善していただきたいと思います。

また、河川や土砂災害危険箇所対策では、昨年、愛知県の蒲郡市において土砂災害危険区域外で土砂崩れが発生し、民家が押し潰されて住民が犠牲になる痛ましい災害もありました。令和5年6月には、湖西市内においても線状降水帯の連続発生による豪雨により多数の箇所で土砂崩れが発生しました。建物被害は無論のこと、庭が土砂で埋まったり河川沿いの擁壁が崩れて庭が崩壊した、そんな被害もありました。

そこで避難所対策、河川工事、土砂災害危険箇所対策についてお聞きしたかったのですが、この辺についてはもう既に御答弁いただいておりますので、その中で土砂災害危険区域の見直しや既存制度では救えない被災者への支援について、何か市長のお考えがあればお伺いしたいと思います。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長、答弁、土砂災害危険箇所についてのところで答弁いただければと思いますが。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。土砂災害の危険箇所についてお答えをしたいと思います。

先ほど来も申し上げたように、令和6年8月の台風10号では、近隣の蒲郡市において土砂災害警戒区域に指定されていない箇所が崩壊するなど、想定を超える災害が発生する可能性が高まっています。県は、令和6年3月に県内で9,047か所、湖西市内では149か所の新たな土砂災害警戒区域候補地を公表しています。今後、県と連携を深めながら速やかな基礎調査の実施、新規箇所の指定を進めていきます。

さらに、擁壁やのり面対策などの急傾斜地崩壊対策事業におきましても、関係住民の御理解が得られるようであれば、県と連携して指定に向けての調整を行いたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ぜひともしっかりと危険箇所の見直し、再指定、新しく指定するそういったことをしていただいて、取りこぼしのない支援、対策の

ほうをよろしくお願ひしたいと思います。

次の質問に移ります。

○議長（馬場 衛） 次ですか、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 市立湖西病院の経営強化プランの加速に当たり、病院の在り方について市長のお考えを伺いたいということなんですが、既にいろいろ方策のほうを、具体的なことはまた近日中ということなんですが、特にこういう公立の病院というのはなかなか赤字経営でどこの自治体も苦しんでおります。そこで黒字化に向けて市長のお考え、赤字を減らすのか黒字に転じるそこまで目指すのか、そこら辺をお伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

公営企業法の全部適用ですので、ちょっと黒字か赤字かということの定義づけがなかなか難しいことでございますので、ちょっと答弁は差し控えさせていただきますが、ただ考え方としてはやはり総務省の繰出し基準というのがありますので、やはりその中に収めたいというのは考え方としてあります。

以上でございます。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 分かりました。できるだけ湖西市民のためにも経営の健全化、こういったことを含めて御検討をしっかりとお願いしたいと思います。

次に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○3番（寺田 悟） 次に、「湖西市を暮らしやすくする」ということで、人口減少対策として北部地区や南部地区のコミュニティ維持、既存集落の空き家対策、宅地活用についてなんですけども、この北部地区及び南部地区の既存大規模集落に対する市長のお考え、そういったことは分かりましたが、湖西市全域を見た場合、この人口減少、過疎化対策として現在市街化調整区域、これで既に市街化している宅地がたくさん建ったり商店があったりとかそういうところですが、ただ市街化区域から外れてると市街化調整区域のエリアに入ってるということでなかなか開発が進まない、そういったとこの区域の緩和・解除、また50戸連たん制度、こういったものが

あって既に過疎化した集落では50戸未満だということで、新たに家を建てることができないそういった問題もあって、さらに過疎化が進んでいくということで増やすことができないような状態の集落、地域もあります。こういったことをぜひ緩和する、そして家が建てられるようにするそういったお考えはなにか、その辺を伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 今、北部地区や南部地区のコミュニティ維持、既存集落の空き家対策、宅地活用等についての市の考えを伺うということを事前にいただいております、ここに関しましては先ほども似たような答弁をさせていただいたんですけども、これと今の趣旨が違うものですから、今御質問いただいたことに答えるような形でよろしいでしょうか。

○議長（馬場 衛） 寺田議員、もう一回その部分だけ、簡潔に質問していただければと。

○3番（寺田 悟） 市長の人口減少対策、それについては先輩議員の質問でよく分かりましたので、空き家対策等。ですから北部地区、南部地区の既存大集落だけではなくて、湖西市全体を見た場合の市長のお考え、これを伺いたいということです。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

まず、御質問いただきました湖西市全体ということでございますけども、まず北部地区と南部地区のことを言及させていただきたいと思います。

やはり、そちらの地域に関しましては地域コミュニティの維持・向上が喫緊の課題であると認識しています。そこで、既存集落及びその周辺を生活拠点と位置づけ、ゆとりある空間を生かした良好な住環境を形成するとともに、公共交通により市街地との連携を図ることで、不足する機能を相互に補完する地域を目指してまいります。

具体的には、既存集落においても建築開発行為が可能となる優良田園住宅等の制度と組み合わせながら、空き家や空き地を活用してまいりたいと考えております。

少し補足をさせていただきますが、湖西市は1970年代ぐらいにそのときの政治家の皆さん等々が頑張っていたいて、国の総合パイロット事業で優良農

地というものをたくさん生み出していただきました。ですので、例えばそういった優良農地のど真ん中に家を建てるとかそういった考えは私の中には一切ございません。ただ、やはり市街化調整区域、例えば大規模既存集落の周辺部も市街化調整区域になっているところが多いんです。そういったところに対して、にじみ出しとよく言い方をしますけども、そういった形での私は開発というのはありだと思っておりますので、先ほども申し上げたように市の職員の皆様に一生懸命頑張ってもらっていて、優良田園住宅等の制度を今考えてくださっておりますので、そういったもので開発をしていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） そうすると、現時点では大規模既存集落、その周辺の市街化調整区域のみということで、それ以外のところの既に住宅がたくさん建って、既存というか既に住宅形成、市街化してるそういう地域、例えば岡崎地区の小学校、中学校周辺だとかそういうところで、市街化調整区域ということでまだ農地が残っている、白地のところがあるんですけども家を建てることができない。実際、ですけども農業は後継者もいなくてなかなか継続できない、土地の活用にも困っているそういったところが散見されるんですけども、そういったところについては今のところはお考えはないということでよろしいですか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

今の寺田議員がおっしゃっていただいたような地域に関しても、可能性を探っていききたいなと思っております。

例えば、寺田議員の地元の岡崎小学校区もそういったところが多いという認識です。住宅地と住宅地の間に農地は挟まっていて、そこが活用されていないというのは私も把握をしておりますので、そこに関しても、これから開発ができないかということで検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 住民の方々も期待しておりますので、ぜひともその辺はよろしくお願いいたします。

次の質問に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○3番（寺田 悟） 文化芸術の振興について、市長はアーツカンシルしずおかや静岡県舞台芸術センターなどと連携を進めるとありますが、新しい文化芸術の振興と、湖西の伝統的な郷土芸能である湖西歌舞伎や有形、無形文化財に指定されている神社や寺院とその祭礼行事、有名な遠州新居の手筒花火など、既存の文化芸術の振興や情報発信について、市長のお考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

まず、静岡県が進めるアーツカンシルしずおかなんですけども、住民全体のアートプロジェクトを支援し、活動費の助成を行っています。本市でも白須賀地区や、これに関しては滝本議員が一生懸命やっただいておりまして感謝申し上げたいと思いますけども、あとは新居地区のNPO法人が助成を受け事業を実施しております。また、静岡県舞台芸術センター（SPAC）というものでございますけども、日本初の公立文化事業集団として高い水準の舞台芸術を行っています。アーツカンシルしずおかや静岡県舞台芸術センターは、文化芸術活動を進める上で大きな力になると認識しておりますので、今後も市内全域で活用が広がるよう、制度の周知を図っていききたいと考えています。

さらに、湖西歌舞伎や遠州新居手筒花火など、地域の誇りとも言える既存の伝統文化につきましても、これまで同様、経費の助成を行うなど活動が持続的に続けられるよう、引き続き支援してまいりたいと思っております。

1つ付け加えさせていただくと、ある有名な学者さんが、神話と文化がなくなるとその地域は滅びるとおっしゃってしまして、私もそのとおりだと思っております。今、寺田議員がおっしゃったように伝統的な行事というのは、しっかりと保存をして行かなければいけないと心の底から思っておりますので、

またぜひ御知見をいただければと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ありがとうございます。ぜひとも湖西市民だけでなく観光客の誘致、誘客や地域の活性化につながるような文化芸術の振興と情報発信をお願いしたいと思います。

次に移ります。

○議長（馬場 衛） 3ですね、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 「湖西市を元気にする」、浜松湖西豊橋道路の整備促進に取り組むとありますが、ちまたでは完成は30年先とも言われています。湖西市はルート上、重要なポジションとなりますが、早期実現に向けて何か市長のお考え等あればお伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

浜松湖西豊橋道路の整備につきましては、県議のときから建設促進期成同盟会の総会へ参加をさせていただいて、物流・防災・観光・国道301号の渋滞対策などの観点から、この道路の必要性は十分認識をしているところでございます。

現在、国において環境影響評価及び都市計画を進める手続を実施中であり、事業着手や供用開始の時期は示されていませんが、国に対しましては静岡県、愛知県、浜松市など近隣自治体と連携し、早期実現に向けた要望活動を積極的に取り組んでまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ありがとうございます。北部にインターチェンジができれば、単に物流や交通流が変わるだけではなく、北部地域の開発発展や人口増加も望めますので、浜松市、豊橋市とも連携して、早期実現に向けて国や県に積極的に働きかけのほうを重ねてよろしく願いいたします。

2番目の質問へ行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○3番（寺田 悟） 水産業について、浜名湖の環境改善や資源確保などに取り組むと述べられており

ますが、市長のお考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

浜名湖の水産業は、本市にとって非常に重要な地域資源でありまして、その環境改善や水産資源の確保に取り組むことは市全体の活性化につながるものと考えております。アサリをはじめクルマエビなど、浜名湖の水産資源は近年、記録的な不漁となっており、その要因として様々な複合的な問題が指摘をされています。

先ほども御答弁申し上げましたが、本市単独ではなかなか難しいと考えておりますので、静岡県へ強く要望し、浜松市や浜名漁業協同組合等としっかり連携を取りながら、効果的な施策を展開してまいりたいと考えています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） これまでにも県や浜松市、民間企業と協力して、浜名湖の水質検査やアサリの稚貝の養殖などを行ってきました。浜松市では先日、アマモ育成ブルーカーボンの活用などで、湖西市や漁業協同組合と連携するということで報道発表もしておりました。ぜひとも連携を取って、湖西市もしっかりとお願いしたいと思います。

それに加えてクロダイによる食害対策、こういったことも他市町では行われています。また、ほかの他市町では陸上養殖の取組、そういったことも研究して行っているというところもありますので、ぜひとも水産業支援についてお願いしたいと思います。

次行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○3番（寺田 悟） 3つ目、観光面において、体験型観光商品の推進やインバウンド受入れ体制の構築などに取り組むとありますが、湖西市は歴史的な要衝地域であり、東海道の新居の関所、紀伊国屋、小松楼、本陣跡、寺道通り、潮見坂、白須賀宿、また中部地域では本興寺、妙立寺、東雲寺（摩利支天）、また北部地域では宇津山城跡、大知波峠の廃寺跡など数多くの名所旧跡が存在しているほか、昭和の小堀遠州と言われた世界的造園家の中根金作氏

とその子孫が手がけた名庭園が多数現存しております。外国人観光客の誘客に効果的と考えます。歴史と観光をつなげるまちづくりについて、市長のお考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

この歴史と観光をつなげるまちづくりというのは、私もとても大事なことだと思います。どのように政策を打っていくかというのは、先ほども竹内議員の御質問のときにお答えをしたように、観光地域マーケティングという考え方で進めていく必要があるかなと思っています。現在でも中根金作庭園のツアーの際には、舟運と新居関所周辺の町歩きを組み合わせたツアーを実施するなど、歴史と観光をつなげる取組を市では実施をしておるところでございます。今後も観光客の様々なニーズに応えていけるよう、歴史的な資源と観光資源をつなぎ合わせたコンテンツを磨き上げていくとともに、市内外に広くPRを進めてまいりたいと考えております。

舟運に関しましては、やはり新居の関所と舞阪をつないで昔の今切の渡しというものを私は再現する必要があると思っていますし、取り組みたいと考えているところでございます。そういった昔の歴史を調べると、とても魅力的な事実も出てきますし勉強にもなると思いますので、しっかりと取り組んでいきたいと思っています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ただいま市長のほうから舟運のお話が出たものですから、ちょっとそこをまた付け加えてお聞きしますが、今新居の関所と舞阪をつなぐということなんですけど、北に東名高速の浜名湖サービスエリアがありますけども、そこを昔は縦のライン、これもつなぐようなお話があったというふうに聞いておりますが、そちらのほうまで発展させて天竜浜名湖鉄道と併せて浜名湖をずっと一周できるような、舟運と鉄道を使って観光できるようなそういったことはいかがでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

寺田議員の御提案はとても魅力的でございまして、昔は観光汽船というものがありませんでした。ただ一つ、課題は例えば上の浜名湖サービスエリアと仮に結ぶとなると、一部潮の流れが相当速いところがございます。ですので、数人乗りの漁船で短時間で行けるかということ、そこに大きな課題があると思っておりますので、やはり優先すべきは例えば新居の中の周遊、つないだとしても新居、鷺津、入出等と湖西市の沿岸を点々とするようなイメージは私の中にはあります。これからしっかりとそこも研究をして考えていきたいなと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ありがとうございます。ぜひともまた調査して、可能な限り広めていただきたいと思っています。

それで一つ、湖西市にはボートレース浜名湖があります。ここをインバウンド客に向けての観光、そのルートに乗せて体験していただくとか、浜名湖ボートレース企業団との連携、そういったことはいかがでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

連携すべきだと考えております。今でも浜名湖ボートレース企業団では、多分もう既に台湾の旅行会社を呼んで経験をしていただいたりとか、そういった取組は既に行っていると考えております。ですので、ボートレース場だけで台湾に戻るわけにはいきませんので、ボートレース場プラスその周辺の魅力を併せたパッケージをこれから提案できるかなと思っています。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ありがとうございます。ぜひともよろしく願いいたします。

じゃあ4つ目お願いします。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○3番（寺田 悟） 「学びと子育ての環境を整える」、ここで農業・漁業の体験学習について湖西市の特色を出した唯一無二の学習体験を、子供たちに

させていただきたいと願いますが、市長のお考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） ちょっと先ほどの答弁と重複をしてしまいましたが、自然豊かな本市において体験学習をこれまで以上に取り入れることは、子供たちの創造性とチャレンジ精神を育むことができると確信しております。ついては、各学校が体験学習を教育課程に適切に組み込むための参考となる情報や機会を提供するとともに、教育委員会において必要な調整や支援を行えるよう努めてまいります。

農業・漁業、あとは湖西市には林業の事業者さんというのが今はなくなってしまっていると認識しておりますが、やはり森林の体験というものも私はとても大事な事かなと思っておりますので、そこに関してもまた湖西市の教育委員会の皆様と一緒に取り組んでいけたらなと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 湖西市は、モノづくりのまちとよく言われております。製造業に関して、体験学習や経営者による出前講座、こういったものはしっかりと充実してます。しかし、第一次産業では畜産を含めた農業・漁業の体験学習というのがあまり充実していないということで、やはり自然の恵みとか命の大切さ、そういったことを知る教育です。そういったことを通じて、例えば今犯罪がよく中学生同士で刺してしまったとか、そういった悲惨な事件もあります。しかし、そういったことを命の大切さを知ることによって、そういう巨悪事件というのを減らすこともできますし、闇バイトで若者がお金目当てに走るということもあります。ですから、やはり命の大切さ、そういった教育ができればそういうこともとどまるということも言えます。

また、食の大切さ、そういったことを知る食育にも通じます。そういうことが大変重要と考えますので、その点もよろしく願いして、しっかりと体験学習をより実のなるものにしていただきたいと思います。ありがとうございます。

次に移ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○3番（寺田 悟） 入所待ち児童解消の取組について、待機児童解消とともに早期解決に向けた市長のお考えというのはよく分かりましたけども、その入所待ち児童も待機待ち児童も言い方が違うだけで、保護者の立場からしても保護者の皆様にとっては同じ状況が続くということになります。誰もが送り迎えに便利な園を希望して、そこの園に入りたいということを願っております。ですけども空きがあっても遠くの園しかない、近くの希望するところに入れないということで送迎の負担が高くなったり、数字の上では待機児童数がゼロでも入所待ち児童が解消されなければ、本当の問題解決にはならないと考えます。これは、放課後児童クラブの待機児童にもつながる問題だと思います。共働き世帯や独り親世帯が子育てしやすい環境づくり、市民に寄り添った対応と施策の観点から、市長の入所待ち児童解消について、再度お伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

先ほどと重複をしてしまいましたが、民間保育施設の新設や既存保育施設の定員拡充を進めることで、入所枠を確保してまいりたいと考えております。早期解消につきましては、民間保育施設の新設に伴い、令和10年度の開設に向け令和7年度の早期に事業者を公募してまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） その辺はよく分かってるんですが、結局、要は入りたいたこに入れない、遠くのところが空いてるから遠くに行ってくださいよとそういったことが実際にはあるんですけども、その辺を調整するという、もう少し近くの人、遠くの人もうまく通園状況を子育てしやすい、子育て世帯の親の立場に立った入所の仕組みというのを、そういったことはいかがでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 寺田議員にちょっと確認なんですけども、入所の仕組みというのは具体的に何か寺田議員の頭の中でございますでしょうか。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 地理的な状況とかあと通勤、どちらの方向に行くとかそういった送迎の負担を軽くするためのそういう、例えば既に空きがあつて先に入ってるけども、本当はこっちに転園したいんだという方がいればそういった方を交換するとか、既に入所してるけども近くに來られない、要は空きが次できたときにこっちにうまく転園できると、こちらの人と交換できるというようなそういったことはいかがでしょうか。

○議長（馬場 衛） 寺田議員、教育委員会の所管になるものですから、この保育園の関係につきましては市長の所信からちょっと外れてきちゃうもんですから、また施政方針とかそちらのほうで確認していただければと思うんですがいかがですか。市長にどうしてもお聞きしたいですか。

○3番（寺田 悟） 今市長のほうから言われたもんですから、僕の考えはそういうことです。

○議長（馬場 衛） それじゃあその部分だけ、市長。

○市長（田内浩之） 入所の仕組みということに対しての仕組みの回答には申し訳ありません、これから考えていきますという御回答しかできないですけども、ただ、今新しい園を造るということに関しましては、やはり入所待ちが多い地域に新規も手を挙げやすい状況にあると思いますので、それによって相当解消ができると考えております。例えば、ある地区に足りなければ、当然園も経営になりますのでたくさん子供たちが集まってきそうなところに建てるというのが市場原理でございますので、それで相当数解消になると考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ぜひとも解消されるように期待をしております。

市民の皆様から、湖西市はお隣の浜松市と豊橋市よりも子育てしやすい市だと評価していただけるように、よろしくお聞きしたいと思います。

5問目、最後です。

○議長（馬場 衛） 最後ですね、どうぞ。

○3番（寺田 悟） 最後に、4つの柱を推進するための司令塔となる市役所新庁舎の建設について、市長のお考えを伺います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

新庁舎については、行政サービスの拠点として平時、災害時問わず業務継続が可能な機能を持ち、窓口サービスの充実や行政機能の集約など、市民の皆様にとっても利便性が高い市役所にしていきたいと考えています。

また、基本理念に掲げる「行かなくてもいい」けど「行きたい場所」として誰もが親しみやすく、自然と集いたくなる場所にしていきたいと考えています。現在、市民ワークショップを通じ、多様な視点から市役所の役割、機能などについて議論をいただき、その御意見を踏まえ基本計画策定に向けて準備を進めております。今後も丁寧にプロセスを重ねながら、皆様の期待に応えられるような新庁舎となるように努めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） 新庁舎の建設場所も含めて、市民の利便性、公共交通のアクセス、高齢者、障害をお持ちの方の利用、まちの活性化、市民活動、あと働く職員の通勤や職場環境など、市民とそれから働く職員のウェルビーイング、これがナンバーワンと感じていただけるような新庁舎建設をぜひともお願いしたいと思っております。その点、市長いかがでしょうか、一言お願いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

ウェルビーイングはとても大事な観点でありまして、鈴木康友静岡県知事も総合計画をこれから策定に向かって、このウェルビーイングという言葉が多用しておりますので、私もとても大切に市役所を検討していきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 寺田議員。

○3番（寺田 悟） ありがとうございます。ぜひともすばらしい新庁舎が完成することを期待してお

ります。

本日、多くの質問に答えていただき誠にありがとうございました。湖西市民の皆様と未来の子供たちのために、しっかりと正しいかじ取りを期待申し上げて、私の一般質問を終わりたいと思います。どうもありがとうございました。

○議長（馬場 衛） 以上で、3番 寺田 悟議員の一般質問を終わります。

次に、9番 福永桂子議員の発言を許します。

〔9番 福永桂子登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは9番 福永桂子議員、どうぞ。

○9番（福永桂子） 9番 福永桂子です。まずは、改めまして市長就任おめでとうございます。これから田内市長の強いリーダーシップの下、市政を運営していかれることと思いますが、田内市長は田内市長らしく湖西市を引っ張ってくださることを期待しております。

それでは、質問しようとする背景や経緯です。

1つ目、市長の所信表明における人口の減少が顕著となっている北部や南部地区のコミュニティの活力維持にも注力し、既存集落における空き家対策をはじめ、従来からの宅地の利活用を促してまいりますとの発言について、北部や南部地区の多くは市街化調整区域に指定されているため、土地の利活用が制限されています。この現状が人口減少と地域活性化の停滞という課題を引き起こしています。また、コンパクトシティ政策の推進が叫ばれる中、北部や南部地域の持続可能なまちづくりに向けた具体的な方向性が求められています。

2つ目、所信表明における文化芸術を一層楽しんでいただける環境づくりを進めてまいりますとの発言について、市民の文化的満足度向上を目指した施策がどのように展開されているのかを確認いたします。

目的として2つあります。

地域の活力維持に向けた施策とその実現に向けたお考えを伺います。

2つ目、文化や芸術を楽しめる環境整備について

お考えを伺います。

それでは、質問事項1に入ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○9番（福永桂子） これからの北部・南部のまちづくりについて、どのような方向性を考えておられるのかお聞きたいします。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 本市は、合併により市域を拡大してきた経緯から、JRの各駅周辺に人口が集積する一方、郊外の旧町村役場周辺にも集落が形成される形でまちが発展してきたと認識をしております。

これから、北部・南部のまちづくりの方向性としましては、既存集落及びその周辺を生活拠点と位置づけ、地域コミュニティや地域活力の維持向上を図るため、ゆとりある空間を生かした良好な住環境を形成するとともに、公共交通により市街地との連携を図ることで不足する機能を相互に補完する地域を目指します。

また、一方でまちのにぎわいづくりという視点では、北部・南部エリアは湖西連峰や浜名湖、遠州灘海岸など、自然環境を生かした観光・レクリエーションの場としてポテンシャルが高いと認識をしております。これから観光施策をはじめ市として何ができるか、検討をしてまいりたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） 生活拠点として維持向上していくというお言葉ですが、湖西市はコンパクトシティ政策を推進しています。湖西市都市計画マスタープランにおいても、やはり北部・南部の発展はうたっておられません。そして、今市長は持続可能な地域形成を維持、発展していく方向性であると思いますが、そのコンパクトシティ、今言われているコンパクトシティとのバランスはどのようにお考えになりますでしょうか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。一般的に言われているコンパクトシティというと、

ちょっとその前にコンパクトシティという定義づけがやはり難しく、福永議員のおっしゃってるコンパクトシティというものがまた改めてどういうものか、また別の機会に伺えればありがたいんですけども、もし居住する家もコンパクト、コンパクトで真ん中に集めていくという考え方は私にはありません。やはり住むところも北部・南部、新居もこれから、例えば高台等々に関しましても私は宅地を増やしていく余地があると考えておりますので、もし今の都市計画マスタープランがそのように住宅も集めてしまうような記載になっているとしたら、変更する必要はあるのかなと考えております。そこに関してもしっかりとまた勉強していきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） ありがとうございます。しっかりと市民のためにバランスを取っていただきたいなという思いで御質問いたしました。

もう一つなんですけれども、まちづくりには公共交通は欠かせません。そして、市長も御存じのとおり国道301号線の朝夕の渋滞、また市内各所の信号の要所要所でやはり渋滞をしているんです。そして、それは子供の送り迎えも本当に悲惨な状況になっております。そんな中、天竜浜名湖鉄道は北部から新所原、ＪＲ線に接続します。そしてうまくできれば通学、通勤にもっと利用できる可能性はあります。また、天竜浜名湖鉄道に沿っての住宅の開発ということも考えることができます。渋滞知らずの今ある鉄道をうまく使えないかも含めて、朝夕の渋滞についてのお考えをお聞きしたいと思います。

○議長（馬場 衛） 福永議員、ちょっと所信表明からずれてくるんですけど。市長何かありますか、じゃあ市長。

○市長（田内浩之） 再質問ありがとうございます。

まず、渋滞の認識は福永議員と全く同じでございます。国道301号線の渋滞が大変激しいというのは同じ認識です。県議会議員としても大分交差点改良工事というもので取組は進めてまいりましたが、やはり働く方が増えてるということもありまして、一向に解消されないというふうに認識をしております。

す。

解消の方策といたしましては、先ほど来お話が出ていますように浜松湖西豊橋道路も渋滞解消の一つの手になってくると思いますし、あとはそれ以外にも車を使わないで通勤をいただくことを、各企業に御協力いただくということはとても大事なことでなと考えております。例えば自転車で通勤していただくですとか、あとは福永議員おっしゃっていただいたように天竜浜名湖鉄道を利用していただくことで、車での通勤を抑えるということは価値があることだなと認識しておりますので、そこに関してもまたしっかりと勉強して、職員とともに取り組んでいきたいなと思います。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） これから知波田小学校、東小学校が統合されて太田のほうに行くということなんですけれども、そうしましてもスクールバスを出してもあの渋滞の中、朝夕どういうふうに本当にスクールバスを動かしていくのか、よい方策を考えていただきたいとは思っているんですけれども、大変まちづくりにとって重要な課題だと私は認識しております。よろしく願いいたします。

では、問2に入ります。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○9番（福永桂子） 市街化調整区域の制約の中で、土地の利活用についてどのような取組を進めるお考えかお聞きます。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

市街化調整区域においては、これまでも大規模既存集落等において、一定の条件の下で住宅の建築が可能な場合もありましたが、こうした集落の多くでも近年人口減少が進行し、コミュニティや地域活力の維持が課題であると認識をしています。このため、令和7年4月を目途に制度設計を進めている優良田園住宅制度の導入等により、市街化調整区域内の既存集落において自然環境やゆとりある空間を生かした住宅が建てられるようにして、土地の利活用を進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） 今ゆとりある生活環境とおっしゃったんですけれども、JR路線沿いではできにくい住宅の在り方が北部や白須賀では可能です。例えば土地をゆったり使って、そして耕作もできる広い庭がある、また広々とした平家を建てる、また家から見える美しい自然っていうふうな形で、この地域ならではの住宅の在り方があると思いますが、例えばそれを生かして農地だけでなく山林もありますので、それを生かして制約を踏まえた土地の利活用も考えておられるのか、聞いてみたいと思うんです。

例えばなんですけれども、グリーンツーリズムの拠点にするとか、地域コミュニティ拠点の設置などそういうふうなことなんですけれども、それについて少しお考えはお聞きしてよろしいですか。

○市長（田内浩之） 福永議員、御質問ありがとうございます。

ちょっと制約を踏まえての土地の利活用ということで、もう少し御説明いただいてもよろしいでしょうか。

○9番（福永桂子） 私が思っているのは、農地転用とか地域貢献施設のことなんですけれども、例えばよくグリーンツーリズムとやっていますけれども、これは緑豊かな農村地域において自然や文化、人々、そういう交流を楽しむ滞在型の余暇活動ということなんですけれども、それを通じて農村で生活する人も農村を訪ねてくる人も、ベストなクオリティライフを享受できるっていうような、そういうふうなものがグリーンツーリズムというと思うんですけれども、そういうふうな自然があつて土地も安価で広く使えていける、そしてそれをコンパクトシティという驚津、必ず拠点は必要ですのでそういう人たちとも交換し合える、補完し合える、そういうふうな形のことを考えているんですけれども、それは土地の制約の中でしかできないと思っていますので、そういう聞き方をしました。

○議長（馬場 衛） 福永議員、できましたら所信表明じゃなしに施政方針のほうで詳しく聞いていた

だいたいが、この場ではちょっと回答、ちょっと難しいんじゃないかなというふうに判断しておりますが、福永議員いかがでしょう。できる範囲で。

○市長（田内浩之） 質問ありがとうございます。

福永議員のイメージとしては、いわゆる立派な庭と立派なおうち、立派なつてちょっと抽象的ですけどもそういうおうちがある住宅が北部なり南部なり建てやすいという認識だろうと思います。

グリーンツーリズムというごめんなさい、この質問の趣旨とはずれてきまして、観光等の趣旨になってしまいますので、そこのお答えは控えさせていただきますが、福永議員が大きな家と大きな庭のお宅っていうイメージをお持ちであれば、まさしく職員が一生懸命用意をさせていただいている優良田園住宅制度というものにまさしく合致をします。極小な住宅のイメージはここには全くなくて、福永議員がイメージされている住宅と同じもののイメージですので、福永議員のイメージに合致できる開発ができると考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） そのようなことを考えています。都市部と集落がお互いにある物ねだりができる、ゆとりある暮らしがしたい人は外に出てきて、でもコンパクトにアパート、マンションで生活したいな、小さな家という人は都会へ行つて、中心部に行つてもらふとかそういうふうな補完のし合いができれば、都市部は都市部、集落は集落と切り分けなくてもいいのかなということで、そういう形での土地の利活用を必要ではないかということで質問させていただきました。

それでは。

○議長（馬場 衛） 3番ですか。

○9番（福永桂子） 3番ですね。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○9番（福永桂子） 3番ですけれども、危険になる前に何とかするインセンティブ制度を考えていくなど、多面的な支援策を考えておられるのが分かりましたので取り下げます。

それから4番です。4番も文化芸術活動における

お考えについて、同僚議員にお答えされているのを
お聞きしましたので取り下げます。ただ、ニュージ
ーランドのクイーンズタウンが理想とおっしゃいま
したけれども、私も大変好きな町で、オーストラリ
ア人の主人がよく話を聞かせてくれたのを思い出
します。

それでは5番目です。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○9番（福永桂子） 文化活動を楽しめる環境づく
りにおいて、文化活動の場を広げ、市民主体の参加
を支援するためのソフト及びハード面についてのお
考えをお聞かせいたします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

先ほどの答弁と重複してしまうところがあります
が、ソフト面は静岡県が進めるアーツカンシルしず
おかや静岡県舞台芸術センターの取組と連携し、市
内全域で魅力的な芸術文化に出会う機会を創出でき
るよう支援してまいりたいと考えております。

ハード面については、やはり文化ホールなどの文
化施設の建設については、市全体の公共施設の優先
順位を考慮した上で、市民の声を伺いながら考えて
まいります。当面はリニューアルした新居地域セン
ターやれんが館など、既存の公共施設を活用して文
化活動を楽しんでいただきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） 新しい市民ホールを否定され
ているわけではないということは分かりました。そ
して今ある、もちろんリニューアルされた新居地域
センターを市民とともに楽しみたいわけですが、
音響がすごく悪いということを聞きます。なの
で、見れば舞台には反響板がついていないんです。
なので、この間のピアノコンサートも音が散ってし
まったり、上にちゃんと演奏者が持ってきてつけら
れてたんですけれども、なかなか難しいところもあ
って、そういうこともありますのでリニューアルさ
れたばかりなんですけれども、よければ市民の声を
聞いていただいて、まだ改修できる場所があれば
改修していただきたいなとそういうふうに思ってい

るところです。そういうことは可能になるでしょ
うか。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

まず、市民の皆様からどのようなお声が出ている
のかというところをしっかりと把握をしてから、ちょ
っと考えていきたいと思っております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 福永議員。

○9番（福永桂子） その把握はとても大事だと思
いますので、よろしくお願いいたします。

では、文化芸術が本当に市民生活に与える影響は
大変大きくて、地域コミュニティの形成や教育や観
光振興などの発展につながりますので、市民ととも
に文化に親しみ、楽しんでいきましょう。

最後ですが、市長が目指す湖西市まちづくりビジ
ョンを大切にされまして、県議で培われた実績もフ
ルに御活用していただいて、市民の期待に応えてい
ける市政が行われることを望んでいます。

これで私の質問は終わります。頑張ってください。

○議長（馬場 衛） 以上で、9番 福永桂子議員
の一般質問を終わります。

ここでお諮りさせていただきます。

再開から1時間ちょっと超えておりますが、この
ままあともう一人の一般質問で終わりますので、続
けさせていただいてよろしいでしょうか、異議あり
ませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（馬場 衛） それでは最後になります。次
に、それでは18番 二橋益良議員の発言を許します。

〔18番 二橋益良登壇〕

○議長（馬場 衛） それでは18番 二橋益良議員、
どうぞ。

○18番（二橋益良） 18番 二橋益良。県議会では
質問する立場だったか分かりませんが、今日は
初めて答弁の立場ということで、また長時間本当
にお疲れになってると思いますけども、今議長から説
明があったとおりなるべくなら時間内に、5時まで
に終わりたいと思いますのでよろしくお願いしま

す。

また、本日は市長の所信表明の質問というよりも、せっかくだのでちょっと夢と一緒に語りたいなど、そんな気持ちで質問させていただきますのでお願いいたします。

まず初めに、市長を迎えるに当たり所信の一端をお聞きしたいと思います。

現在進行形とも言える消防防災センター建設をはじめ、給食センター等の施設建設計画はもとより、新庁舎それから病院といった大型施設建設計画が企画立案されようとしております。また、第6次湖西市総合計画の1期計画の5年が来年度となり、2期計画の4年に向けた検証と計画の立案に臨むところになっております。湖西市立地適正化計画も湖西市のまちづくりの根幹をなす展望の中、湖西市の大型施設の建設が実行されようとしておりますが、そこでまず、2番目に市長が所信で述べました「湖西市を暮らしやすく」の関連として少し質問をさせていただきます。また、この中核をなす大型施設は、まちづくりの将来計画に合わせ、都市機能誘導区域との関連が欠かせない条件になっております。田内市長が所信での住みにくいと感じている分野に、資源を集中的に投入するというお考えにまた質問をさせていただきたいと思います。

質問の目的でございますが、まちづくりの中核をなす大型施設への建設について伺いをさせていただきます。

それではいいですか。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○18番（二橋益良） まず、1番目としましては、行政資源の特に大型施設は、まちづくりの根幹をなすものであり将来の湖西市としてのあるべき姿を目標に捉える必要があるが、市長の考えるまちづくりのビジョンをお聞きしたいと思います。

○議長（馬場 衛） 登壇して答弁をお願いいたします。市長。

〔市長 田内浩之登壇〕

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

私が考えるまちづくりのビジョンでございますけれども、自然豊かな環境を生かし、まちににぎわいを

創出するとともに、交流人口を拡大することで住みやすさを実感できる住み続けたいと思うまちを実現することです。

先ほど答弁のところで私の理想的な町はニューオーランドクイーンズタウンですということで申し上げましたけども、ビジョンという意味では大平正芳元首相でございますけども、大平首相が掲げられた田園都市国家構想を参考にしたいと考えております。地域の個性を最大限に生かしながら、都市と農村が相互に補完し合う新しい地域社会の姿を目指すものです。この田園都市国家構想におきましては、当時の一流の学者を大平元首相が集められて、今後の日本はこうあるべきだということで構想をまとめられました。その意思を岸田総理大臣も継がれて、デジタル田園都市構想というものを打ち上げられて、進められたと認識をしておるところでございます。岸田総理大臣は今辞任をされましたが、個人的にはもう少し続けていただいて、この田園都市国家構想というものの実現に近づけていただきたかったなというのが私の率直な感想でございます。

そして、この構想では都市には田園のゆとりを、田園には都市の活力をもたらすことで、多様性と調和の取れたまちづくりを目指しております。本市の特性を生かすことによって、このまちづくり構想に十分に近づけると私は考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 二橋議員。

○18番（二橋益良） 確かに大きな意味ではそうだと思いますけども、まず湖西市に返って考えてみますと、この都市計画マスタープランは大したものでございます。まちづくりの本当の根幹というかよく湖西市を描いているなというこれは一つ夢でありますけども、現状そうやって見ますと東西には新所原、それから鷺津、新居という6万人弱の町で3つのJRの駅がある。というのは、駅舎というのはまだいまだに中心市街地なんですよ、ただ問題は南北に長い湖西市が、天竜浜名湖鉄道はありますけども道路でしか終点がないと、ここが大きな我々の課題だなと思います。しかしながら、その中心市街地というのは、やっぱり拠点都市としては鷺津とい

うことではないかなと思います。

そんな中で、これから特に庁舎でありますけども、庁舎に関しましては都市機能の誘導区域にはなくとも構わないかなと思いますけども、ただ病院はやはりこの都市機能の中核だと考えております。ですから、やはり鷺津を中心にするのが、鷺津の市街地にこれからも誘導していかなければならないというのは分かっていますけども、そんな中でこれから大型施設の、2つは給食センターと消防防災センター、これは動いてるものですからあれなんですけども、私が特に言いたいのは湖西病院と新庁舎、これに関して何かお考えがあったらお聞きしたいと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） ありがとうございます。

まず、新庁舎に関しましては、場所も含めて私の考えというものを近々議員の皆様にお伝えをしたいと考えております。また、もちろん市民の皆様にもということで、近々お伝えをさせていただきたいと思います。

あと病院に関しましては、当然場所の検討も大事なんですけども、やはり私は湖西病院の中身がどうあるべきかというところの議論がとても大事かと思っておりますので、その議論をしてから建て替えの場所、建て替える建物等々について考えていきたいと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 二橋議員。

○18番（二橋益良） お考えとしては確かだだと思います。これからも、特に議会とも調整を取りながら、そして市民の皆さんに理解をいただいて進めていただければと思います。

また、この特に病院は私もこの間、常任委員会でもお話をしたとおり、やはりまず建設ありきじゃなくて、建て替えありきじゃなくてまず湖西病院として何が必要で、どういうふうな将来的なビジョンの中で湖西病院はあるべきだというのが大事だなということを発信しておきましたので、またお聞きした中でお願いしたいと思います。

それでは、2番目の質問に。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○18番（二橋益良） 建設計画にはもちろん財政計画が伴わなければなりません、財政の硬直化は避けなければなりません。将来負担も伴い、最近ではどの市でも建設計画の議論が焦点になって、政治的闘争にも発展しています。大型施設は建設ありきではなく、どう知恵を絞るかが問われるところであると思われませんが、湖西市の財政状況を踏まえどのようにお考えでありますか、お伺いします。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

財政状況については、歳入では経済動向や現在国で議論されている税制改正の動きなどにより、安定的な収入への影響が懸念されていることや、歳出では物価高騰や社会保障関係経費の増加が見込まれることから、今後の財政運営も厳しい状況であると認識しております。そのため、建設事業に当たっては財政状況を踏まえつつ、財政負担の軽減、平準化が重要であると考えております。

また、湖西市公共施設等総合管理計画に基づき、全公共施設等の現状と課題を把握し、長期的な視点を持って施設の更新・統廃合・長寿命化を計画的に進めてまいります。

以上です。

○議長（馬場 衛） 二橋議員。

○18番（二橋益良） 特にこの財政というのは、どちらかに重点を置くかというのは一つ分かれ道かなと思うのは、今の現役の人たちの負担になるのか、あるいは将来的に負担を任せるのかっていうこの議論だと思います。一番大事なことは、やはり将来計画があるなら、早くに基金を先に積んである程度緩和した中で進めていくのか、あるいは起債を起こして将来的にもそこに負担をかけていくのかというのは、市長の考え方ですごく変わると思うんですよ。どちらにウエートを置くかちょっと聞きたいと思います。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 二橋議員、御質問ありがとうございます。

そこに関しましては、本当ケース・バイ・ケースだと考えておりますが、ただ将来の負担比率が私は

数字としてはとても大事なことだと思っておりますので、やはりそこが上がり過ぎないようにしっかりとコントロールして、平準化していくということがとても大事なかと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 二橋議員。

○18番（二橋益良） どうしてもこの財政というのは生き物でありまして、例えばついこの間ですと財政的に企業の景気が悪くて、歳入も少なくなるというところもありますけども、今、私もこの頃あんまり言いませんが、湖西市の200億円の規模で30億円の財政調整基金持ってますよね。この30億円が最近ちょっと増え出して34億円ぐらいの間をぐらぐらしてるんですけども、私はこの200億円ぐらいの、6万人弱の人口でそれだけの財政調整基金が必要かどうか、この議論も必要だと思うんですよね。そこは一つの基金ですので、これもひとつ、市長お考えしていただいて将来負担も少なくするような施策というのは大事なことだと思います。

じゃあ3番行きます。

○議長（馬場 衛） どうぞ。

○18番（二橋益良） 現在進められております建設予定の公共施設は、湖西市のまちづくりの一環として位置づけられたものでなければなりません、市長の考える湖西市のあるべき姿、ビジョンと言うと先ほどもちょっとあれがありますけども、湖西市があるべき姿を実直にちょっと今答えていただければありがたいと思いますけど。

○議長（馬場 衛） 市長。

○市長（田内浩之） 御質問ありがとうございます。

現在の建設予定の公共施設につきましては、公共施設等総合管理計画や公共施設再配置計画に基づき進められております。公共施設の整備は、市民の生活の質を高め、地域の活性化に資するものでなければならず、その上で施設の老朽化対策、人口減少への対応、財政健全化を考慮し、市民サービスの向上を目指していく必要があると考えております。

これらの計画は、地域住民の利便性向上や持続可能性に配慮しており、湖西市に住みたい、住み続けたいと思ってもらえるようなまちづくり、湖西市を

より暮らしやすくするという点で、私の考える公共施設整備の方向性と一致しております。ただ付け加えるとするなら、これから新庁舎というものを考えていかなければいけないんですけども、スローガンにもありましたとおり、行きたくなる新庁舎というものは私はとても大事だと考えております。やはり、行政機能プラスアルファの行きたくなる仕掛けというものは、とても大切だなと思っておりますので、そういう意味では今現時点のここの新庁舎は、私のあるべき姿・ビジョンとは離れているというお答えになりますし、今度新しいものをしっかりと造る際においてはやはり自ら行きたくなる、それは別に行政の手続だけではなくて、それ以外の用事で行きたくなる仕掛けというものが必要なのではないかと考えております。

以上です。

○議長（馬場 衛） 二橋議員。

○18番（二橋益良） 大体のお考えは理解させていただきましたので最後になりますけど、湖西市の今いうビジョンというかあるべき姿が、当初からずっずれてきたっていう経緯は私は感じております。なぜならば、この庁舎は市街化調整区域の家がないところにわざわざ造ってしまった。行きにくい場所、だけでもこれからDXなどを進めていきますと、やはりサービスセンターをたくさん造ることによって、ちょっと人員配置は難しいかも分かりませんが、言っちゃなんだけどオンラインでもいろんなことができますので、そうした中で市民対応はそちらで任せる、だけでも根幹である本庁舎の中での作業は、やはり重要なことでないかなと思いますので、旧新居焼却場とか自然豊かでいいですよ。それとか、例えばFDK株式会社のあそこら辺なんか最高にいいところじゃないかな、駅舎も近いし、そういうようなものをこれからも狙っていかなければならないと感じておりますので、反省の意味ではやはり都市計画マスタープランというせっかくいいプランができておるのにかかわらず、それぞれの個別で言う全然そこがつながっていないというのが現状だと思いますので、これからなるべく都市計画マスタープランに近づける方法も検討するべきだなと思いますので、

今後よろしくお願ひしたいと思ひます。

ありがとうございました。それじゃあ、一般質問を終わります。

○議長（馬場 衛） 以上で、18番 二橋益良議員の一般質問を終わります。

これをもちまして、本日予定しておりました一般質問を終わります。

以上で本日の日程を終了しました。

○議長（馬場 衛） お諮りいたします。

9日は一般質問の予備日としておりましたが、全ての一般質問が終了しましたことから、休会としたいと思います。これに御異議ございませんか。

〔「異議なし」と呼ぶ者あり〕

○議長（馬場 衛） 御異議ないものと認めます。したがって、9日は休会といたします。

本日はこれにて散会いたします。お疲れさまでございました。

午後4時58分 散会
